取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

86

TABLE OF CONTENTS
目次

TABLE OF CONTENTS | 目次

1 運転する前に

2 運転するときに

1
2
3
4
5
6

さくいん

外観

車幅灯 P. 167
ヘッドランプ P. 167
ワイパー P. 174
ドアミラー P. 64
ボンネット P. 246
方向指示灯 P. 151
方向指示灯 P. 151
フロントフォグランプ★ P. 171

★：仕様により異なる装備やオプション装備

室内

助手席 SRS エアバッグ P. 83
ヘッドレスト P. 54
SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 83
シートベルト P. 56
トップテザーアンカー
P. 108
A
B
C
CTHPIAW022
アクセサリー
ソケット★
P. 221
グローブボックス
P. 213
フロントカップホルダー★ P. 215
フロントコンソールトレイ
P. 215
SRS サイドエアバッグ P. 83
フロントシート P. 48

A

インテリアランプ P. 211

サンバイザー P. 217

CTHPIAW023

インナーミラー P. 63

バニティミラー★ P. 218

B

★：仕様により異なる装備やオプション装備

C

シフトレバー P. 141, 148

シフトロック解除ボタン★ P. 328

パーキングブレーキ P. 152

シートヒータースイッチ★ P. 223

CTHPIAW026

アクセサリーソケット P. 221

VSC OFF スイッチ P. 178

走行制御モードスイッチ★ P. 143

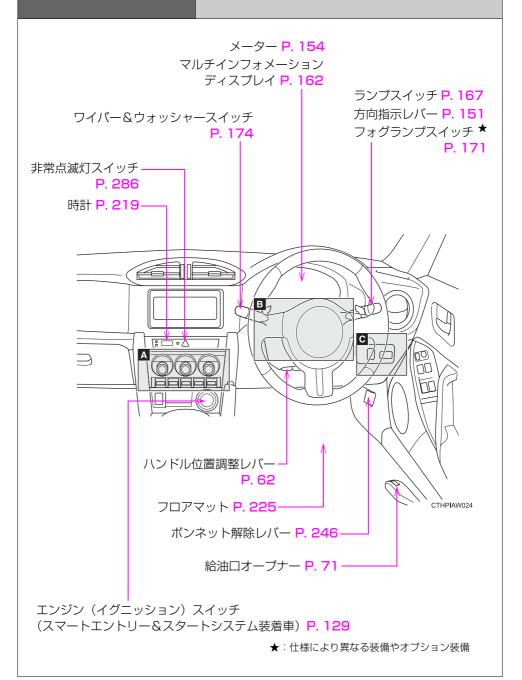
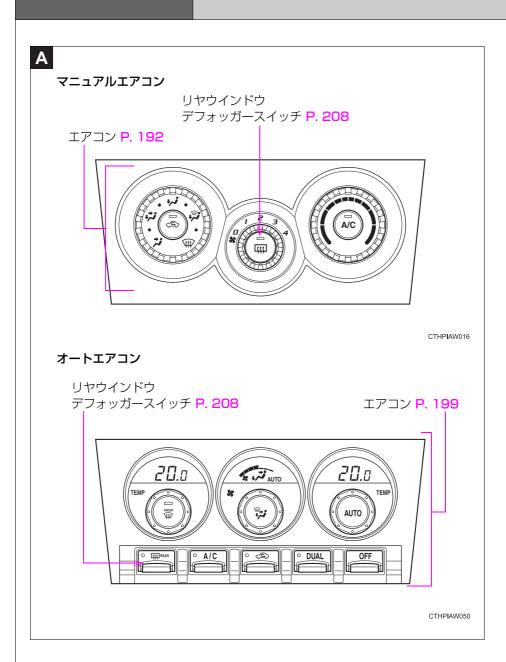
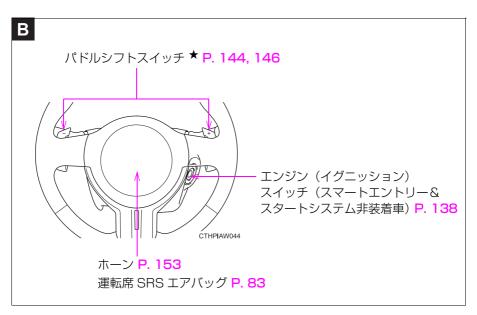
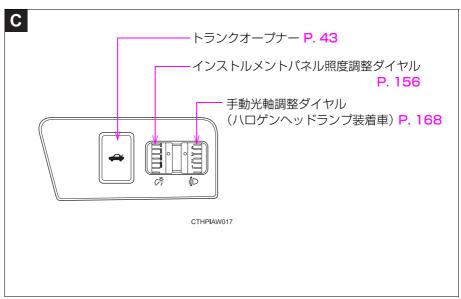
VSC SPORT スイッチ P. 179

★：仕様により異なる装備やオプション装備

★：仕様により異なる装備やオプション装備

A
マニュアルエアコン
リヤウインドウ
デフォッガースイッチ P. 208
エアコン P. 192
1
2
3
0
4
A/C
CTHPIAW016
オートエアコン
リヤウインドウ
デフォッガースイッチ P. 208
エアコン P. 199
20.0
TEMP
FRONT
AUTO
20.0
TEMP
AUTO
REAR
A/C
DUAL
OFF
CTHPIAW050

B

C

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには ＳＲＳ エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取りつけナットの交換。
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。
- インストルメントパネルに純正部品以外のオーナメントを取り付けると、衝突した際に思わぬ事故につながるおそれがあります。オーナメントの装着をする場合は純正部品を装着ください。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR) が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

警告

■お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 108)をお読みください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

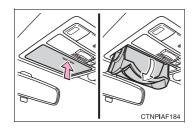
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

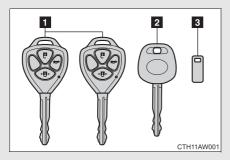
➡ スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

キー

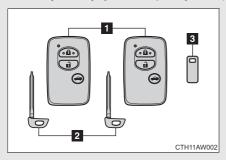
お客様へ次のキーをお渡しします。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 キー（ワイヤレス機能装着）

ワイヤレス機能の作動（→P. 36）

2 キー（ワイヤレス機能非装着）

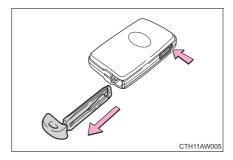
3 キーナンバープレート

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 電子キー

- スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P. 23）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 36）

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P. 330）

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所に保管してください。万一、キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 329）

■航空機に乗るときは

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●キー表面にシールなどを貼らない

●スマートエントリー＆ スタートシステム装着車：テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キーについて（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守り下さい。

●電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

●必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

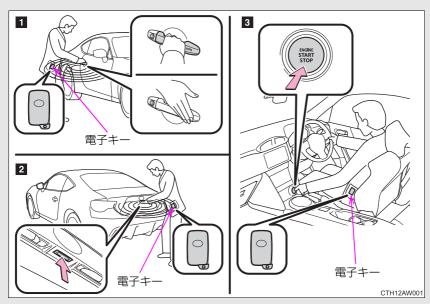
■スマートエントリー&スタートシステムの故障等で販売店に車両を持っていくときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

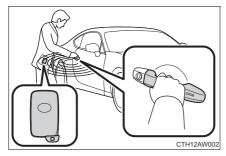
キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

スマートエントリー＆スタートシステム★

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）

1 ドアを解錠・施錠する　（→P. 24）
2 トランクを解錠する　（→P. 24）
3 エンジンを始動する　（→P. 129）

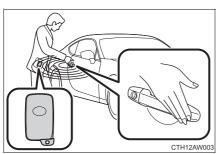
★：仕様により異なる装備やオプション装備

ドアの解錠・施錠

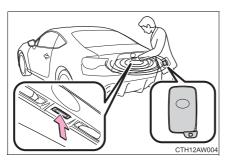
CTH12AW002

ドアハンドルを握って解錠する

ドアハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

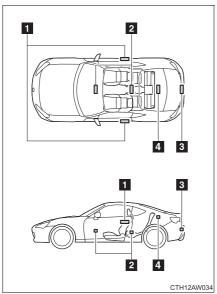
施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。

CTH12AW003

ドアハンドル表面のロックセンサー部（ドアハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

トランクの解錠

CTH12AW004

トランクオープンスイッチを押して解錠する

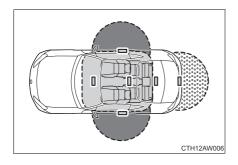
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

3 トランク外アンテナ

4 トランク内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 40-80cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。)

:トランクの解錠時

トランクオープナースイッチから周囲約40-80cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:エンジン始動時または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモード切りかえ時

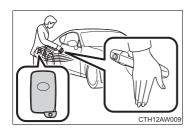
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯でドアの作動を知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■施錠できないときは

CTH12AW009

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P. 300）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と 1 回鳴る 車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたままドアを開き、ドアロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	どちらかのドアが開いている状態でスマートエントリー＆スタートシステム、もしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
車内から“ピーピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにした（“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードのとき運転席が開いた）	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
車内から“ピー”と鳴り続ける（オートマチック車）	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする

■**解錠操作のセキュリティ機能**

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。（セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。）

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 330）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・ＣＤやＤＶＤなどのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（ＰＤＡなど）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●純正用品以外の部品を取りつけたとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
  - ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
  - ・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
  - ・エンジン始動時または“エンジン スタート ストップ”スイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・シフトレバー前の小物入れ・またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）
- 車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効で、3 回目以降はロック動作しません。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して（電子キーの盗難に注意してください）、洗車などをしてください。

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報はとまります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてドアハンドル裏面のセンサー部にふれてください。

●キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して（電子キーの盗難に注意してください）、洗車などをしてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

●字光式ナンバープレートを装着した場合、器具の形状によってはトランクオープンスイッチの操作が出来なくなることがあります。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。(→P. 355)

■オートアラーム★について

スマートエントリー＆スタートシステムで施錠するとオートアラームが設定されます。(→P. 77)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドア・トランクの施錠・解錠：→P. 330

●エンジン始動：→P. 331

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。

●電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 300）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の近くに電子キーを置かないでください。

・ＴＶ
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 274

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルしたときは

●ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。(→P. 36, 330)

●エンジンの始動・"エンジン スタート ストップ" スイッチのモード切りかえ：→P. 331

●エンジンの停止：→P. 131

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。

（カスタマイズ一覧 →P. 355）

警告

■電波がおよぼす影響についての警告

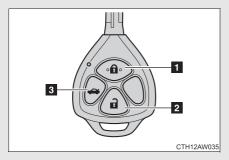
●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 25）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

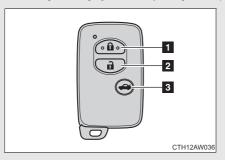
●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する
3 トランクを解錠する（押し続ける）

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 全ドアを施錠する
2 全ドアを解錠する
3 トランクを解錠する（押し続ける）

知識

■作動の合図

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

非常点滅灯でドアの作動を知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

ドア：ブザーと非常点滅灯で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：ブザーで知らせます。（ワイヤレスでの開操作時のみ）

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■オートアラーム★について

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 77）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

●ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われたりしているとき

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車
→P. 30

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドア・トランクの施錠・解錠：→P. 330

■電池の消耗について

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 274）

スマートエントリー＆スタートシステム装着車
→P. 34

■電池が切れたときは

→P. 274

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■販売店で設定可能な機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ワイヤレスリモコン使用時の作動合図などの変更ができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 355）

ドア

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能・キー・ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム★

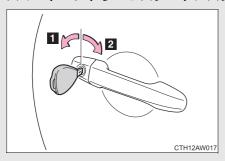
→P. 24

■ ワイヤレス機能

→P. 36

■ キー

キーを操作すると、ドアが下記のように作動します。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 運転席ドアを解錠する

2 運転席ドアを施錠する

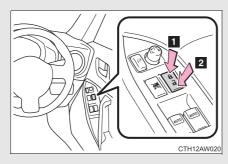
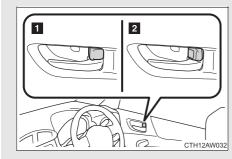
スマートエントリー＆スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→P. 330）

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ ドアロックレバー

1 施錠

2 解錠

キーを使わずに外側から施錠するときは

手順 1 ドアロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

知識

■ドア連動ドアガラス開閉機能

ドアを開閉しやすくするために、ドアガラス全閉時はドアの開閉に連動して、ドアガラスが少し開閉します。

ただし、バッテリーがあがったり、はずれているときは開閉しません。
(→P. 337)

■カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルしたときは（スマートエントリー & スタートシステム装着車）

ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。
(→P. 36, 330)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

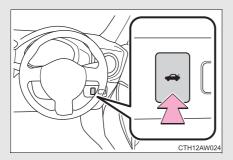
- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアを開閉するときは

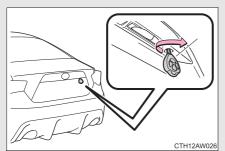
傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能・キーを使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには

トランクオープナースイッチを長押しして、トランクのロックを解除する

■ 車外からトランクを開けるには

キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

トランクのロックを解除する

スマートエントリー＆スタートシステム★

→P. 24

ワイヤレス機能

→P. 36

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■トランク内キー閉じ込み防止機能について（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

●すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はスマートエントリー＆スタートシステム機能で開けることができます。

●すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。

●すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

●ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

■メカニカルキーについて（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→P. 330）

⚠ 警告

■走行中の警告

●走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■お子さまをのせているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ **トランクの使用にあたって**

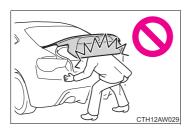
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

● トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。

● トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

● 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

● 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

CTH12AW029

● 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

CTH12AW030

● トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。

● トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。

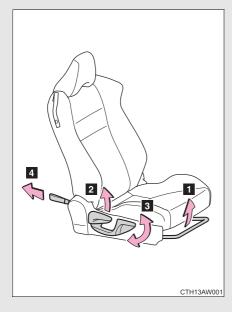
● トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

注意

■ダンパーステーについて

トランクにはトランクを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

- ●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ●ロッド部を軍手などでふれない
- ●トランクにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けない
- ●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

1 前後位置調整

2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整（運転席のみ）

4 シートバックの前倒し★

★：仕様により異なる装備やオプション装備

リヤシートへの乗り降り

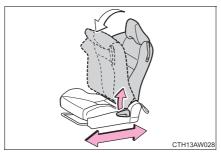
リヤシートへ乗り降りするには、リクライニング調整レバーかストラップを操作します。

■ 乗り降りする前に

シートベルトガイドからシートベルトをはずしてください。(→P. 57)

■ 乗るとき

運転席側（運転席イージーエントリー装着車）

リクライニング調整レバーを引く

背もたれが前倒しされます。

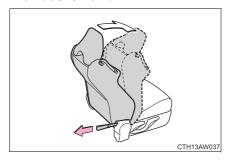
助手席側

リクライニング調整レバーを引く

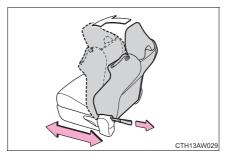
背もたれが前倒しされます。

お車によっては、シートを前後に移動させることができます。

■ 降りるとき

運転席側（運転席イージーエントリー装着車）

ストラップを引く

背もたれが前倒しされます。

助手席側

ストラップを引く

背もたれが前倒しされます。

お車によっては、シートを前後に移動させることができます。

■ 乗り降りしたあとは

背もたれを起こし、シートを固定させてください。

助手席のみ：お車によっては、背もたれを起こした位置でシートの前後位置が固定されます。

知識

■ シートダストカバーについて

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）は必ず取り外してから使用してください。

警告

■ **シート調整について**

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

●シートが乗員に当たらないように注意してください。
とくにシートをうしろに下げるときは、リヤシートの乗員の足を挟んだりしないように注意してください。

●背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。

■ **走行中は**

絶対にリクライニング調整レバーやストラップを操作しないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **リヤシートへの乗り降りについて**

●リヤシートへ乗り降りするときは、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。

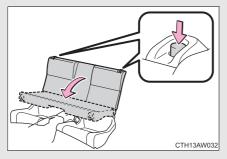
●リヤシートへ乗り降りするときは、シートレールにつまづいて転倒しないよう注意してください。

●リヤシートへ乗り降りしたあとは、必ずフロントシートを固定させてください。

■ **リヤシートからのフロントシート操作について**

フロントシートに乗員がいるときは操作をしないでください。

リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

ボタンを押してロックを解除し、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、ボタンを下に押し込んでください。

もどすときは、背もたれを起こして固定します。

知識

■シートダストカバーについて

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）は必ず取り外してから使用してください。

警告

■背もたれを前倒しするときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車ではシフトレバーをＰに、マニュアル車ではシフトレバーをＮにする
- 倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない
- お子さまがトランクに入らないよう注意する

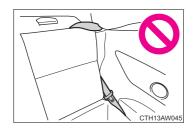
警告

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
シートが確実に固定されていないときは、ボタンの奥に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

●シートベルトを挟み込まないようにする

■リヤシートベルトを使用する前には

シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックに回り込んでいないか必ず確認してください。シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックに回り込んでいるとシートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

ヘッドレスト

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

知識

■ヘッドレストを取りはずすときは

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

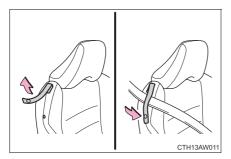
1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

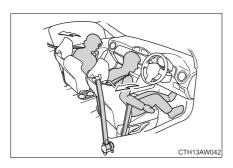
解除ボタンを押します。

シートベルトガイド

CTH13AW011

フロント席のシートベルトをガイドに通しておくと、シートベルトが引き出しやすくなります。

リヤシートへ乗り降りするときは、シートベルトガイドからシートベルトをはずします。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

CTH13AW042

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

お車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 108)

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 56)

■シートベルトプリテンショナーについて

●SRS エアバッグと同時に作動します。

●シートベルトを着用していない場合でも作動します。

●一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

●作動したあとは、必ず運転席と助手席とも同時にトヨタ販売店で交換してください。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **シートベルトの着用について**

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトもしくはチャイルドシートを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ **妊娠中の女性の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 56)
妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■プリテンショナー付シートベルトについて

●シートベルトプリテンショナーが作動するとSRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの効果を十分に発揮させるために、必ず次のことをお守りください。

・シートベルトを正しく着用する
・シートベルトを正しい位置に調整する

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

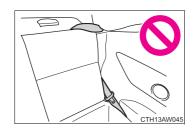
●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

⚠ 警告

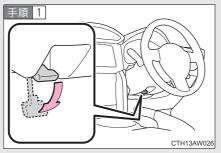
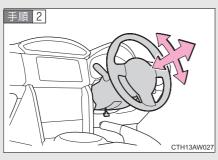
- プリテンショナー付シートベルトの取り付け・取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトガイドについて

- ベルトがねじれたり、ひっかかったりしたままで使用しないでください。
- 使用・不使用に関わらず、確実にボタンを留めてください。
- ぶらさがったり、無理に引っぱったりしないでください。

■リヤシートベルトを使用する前には

シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックに回り込んでいないか必ず確認してください。シートベルトが背もたれに挟まれていたり、背もたれ固定フックに回り込んでいるとシートベルトが着用できない、または衝突したときなどにシートベルトが充分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる

ハンドルを上下･前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

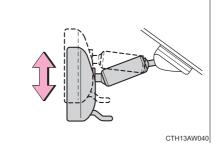
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

インナーミラー

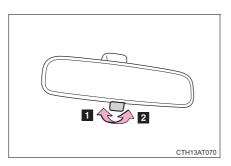
座った姿勢に合わせて、後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

CTH13AW040

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

CTH13AT070

1 通常使用時

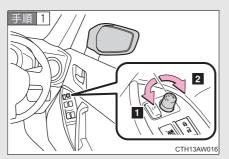
2 防眩時

警告

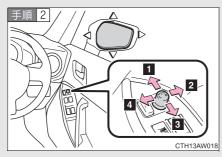
■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。

ミラーを選ぶ

1 左

2 右

スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する

1 上

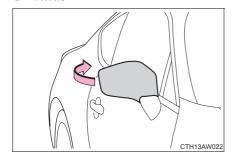
2 右

3 下

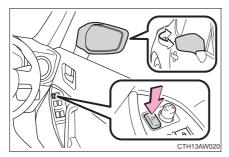
4 左

ドアミラーを格納するときは

手動格納

CTH13AW022

ミラーを手で後方に押して格納する

電動格納★

CTH13AW020

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置に戻ります。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→P. 208）

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ドアミラーを格納したまま走らない
  走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーター★が作動しているときは

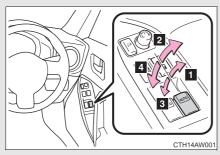
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

パワーウインドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。

CTH14AW001

1 閉める

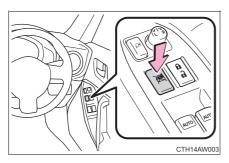
2 自動全開※

3 開ける

4 自動全開※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

CTH14AW003

スイッチを押すと、助手席のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン OFF 後の作動

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、ドアガラスに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、ドアを閉め、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

手順1 **スマートエントリー＆スタートシステム非装着車**
車を停止し、エンジンスイッチを“ON”にする
スマートエントリー＆スタートシステム装着車
車を停止し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションON モードにする

手順2 2 回連続してパワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける

手順3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、スイッチを 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でドアガラス開操作を行うと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ **ドアガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう声かけをしてください。
- ●お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりするおそれがあります。

■ **挟み込み防止機能**

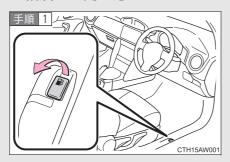
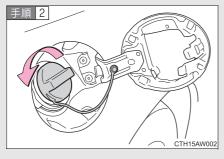
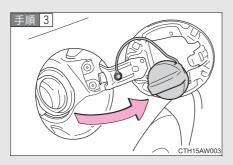
- ●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

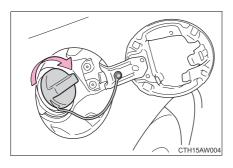
給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを“LOCK”にしてください。
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車：ドアとドアガラスを閉め、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。

■ 給油口の開け方

オープナーを上げて、給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し戻ります。

知識

■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

警告

■給油について

給油するときは次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●屋内で燃料の取り扱いをしない。

●ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、"シュー"という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける。
キャップを開けるときは、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き返すおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

●給油口に、他の人を近付けない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

●ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。

・給油口にノズルを確実に挿入する
・継ぎ足し給油をしない

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

●ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守ください。

警告

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

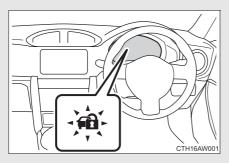
■給油するときは

指定（無鉛プレミアムガソリン）以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- ●エンジンの始動性が悪くなる
- ●エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ●エンジン出力が低下する
- ●排気制御システムが正常に機能しない
- ●燃料系部品が損傷する
- ●塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチからキーを抜くと、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■登録されたキーでエンジンが始動できないときは（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

一旦キーを抜いて、再度やり直してください。

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属性のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム★

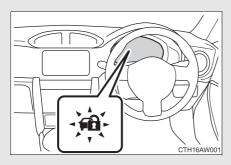
不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆ スタートシステム･ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり開けられると、オートアラームが作動します。

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランクを閉め、次のいずれかを行ってください。
次の方法以外で車両を施錠しても、盗難警報装置は設定されません。

- スマートエントリー＆スタートシステムを使って施錠する
- ワイヤレスリモコンを使って施錠する

30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されると、セキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。
セキュリティ表示灯点灯中に、ドアの解錠操作や“エンジン スタート ストップ”スイッチのアクセサリーモードへの切りかえを行うと、オートアラームは設定されません。

■ オートアラームを解除・作動を停止するには

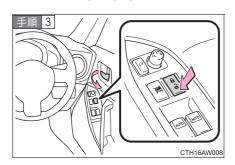
次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆ スタートシステムを使ってドアを解錠する
- ワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- エンジンを始動する（数秒後に解除、停止します。）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

オートアラーム作動 / 非作動の切りかえ

手順 1 全てのドア・トランクが閉まっていることを確認する

手順 2 “エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする

ドアロックスイッチの 🔓 を押すと同時に運転席ドアを開け、約 10 秒間保持する

次のように作動/非作動が切りかわります。

オートアラームの状態	ホーン	マルチインフォメーション表示
非作動	2 回吹鳴	AL oF
作動	1 回吹鳴	AL on

知識

■オートアラームについて

●特定条件で作動し警報などで周囲に知らせる装置であり、盗難を防止するものではありません。

●初期設定は非作動になっています。オートアラームを使用する場合、作動設定を行ってください。

■メンテナンスについて

オートアラームのメンテナンスは不要です。

■ **ドアを施錠する前の確認**

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ **トランクの開閉について**

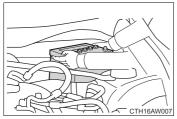
- トランクを開けたままで設定操作をした場合、オートアラームは設定されません。トランクを閉め、30 秒以上経過すると設定されます。
- オートアラーム設定時、スマートエントリー& スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってトランクを解錠すると、オートアラームが待機状態になります。トランクを閉めて 30 秒以上経過すると、再度オートアラームが設定されます。

■ **オートアラームの作動について**

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。
オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

CTH16AW003

- 車内に残った人が、ドア・トランクを開けたとき

CTH16AW007

- 施錠後、バッテリーあがりなどで、バッテリーの充電・交換をしたとき

■バッテリーをはずすときは

オートアラームを解除してください。
オートアラームを設定したままバッテリーをはずすと、バッテリーを再接続したときにオートアラームが作動します。

■販売店で設定可能な機能

オートアラームの作動／非作動を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 355）

注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 48）

2 シートをペダルが十分に踏みこめるようなシート位置にする（→P. 48）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 48）

4 運転しやすく､SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 62）

5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 54）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 56）

警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

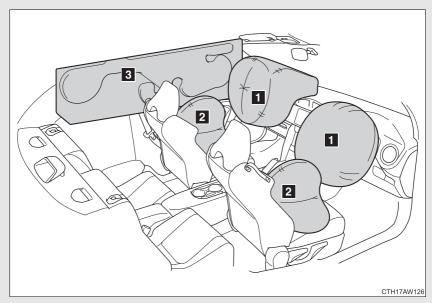
●サンダルや厚底靴、下駄で運転をしないでください。
アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ

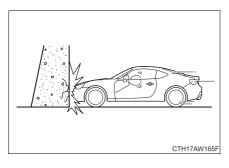
2 SRS サイドエアバッグ
車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

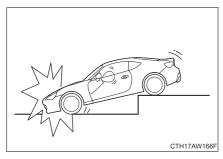
運転席、助手席 SRS エアバッグが作動するとき、しないとき

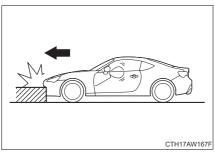
運転席、助手席 SRS エアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。
車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。
したがって、車体の損傷が大きくても SRS エアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

作動するとき

● 次のようなときに作動します。

20 ～ 30 km/h 以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき

● 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。

CTH17AW166F

深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボデー下面を強くぶつけたとき

CTH17AW167F

縁石に衝突したときや、道路上の突起にボデー下面を強くぶつけたとき

作動しにくいとき

● 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき

CTH17AW168F

電柱などに衝突したとき

CTH17AW169F

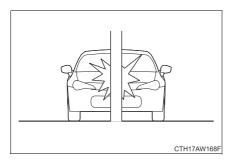
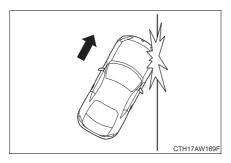
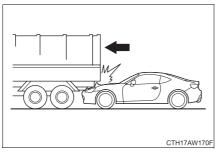
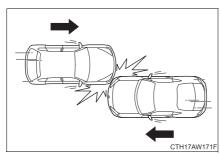
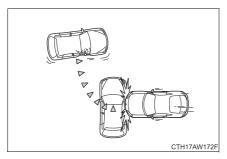
斜め前方への衝突のとき

CTH17AW170F

トラックの荷台にもぐり込んだとき

CTH17AW171F

片側衝突（オフセット衝突）のとき

CTH17AW172F

駐車している車両など、移動または変形するものに衝突したとき

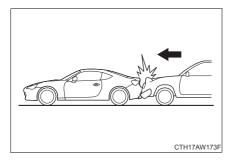
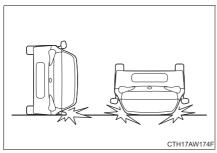
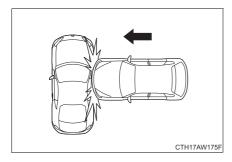
● また、次のような場合は SRS エアバッグがまれに作動することもありますが、本来の効果は発揮されません。

CTH17AW173F

後ろから衝突されたとき

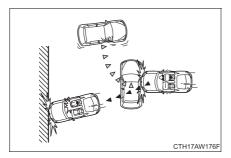
CTH17AW174F

横転や転覆したとき

CTH17AW175F

横方向から衝突されたとき

作動しないとき

次のようなときは作動しません。

CTH17AW176F

一度SRSエアバッグが作動した後の衝突

SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグが作動するとき、しないとき

SRS サイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

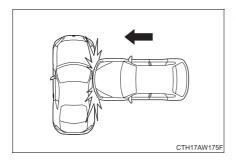
SRS カーテンシールドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席とリヤ席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS カーテンシールドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

作動するとき

次のようなとき衝撃が大きいと作動します。

CTH17AW175F

側面に真横から衝突されたとき

作動しにくいとき

● 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります。
衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるため SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグは作動しにくくなります。

CTH17AW177F

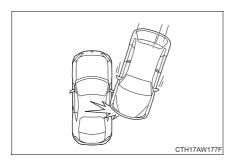
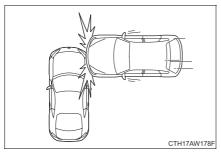
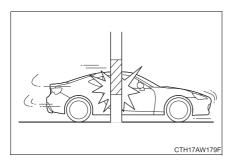
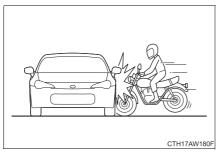
車両側面に斜めから衝突されたとき

CTH17AW178F

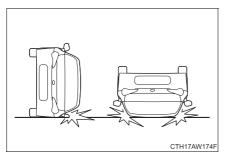
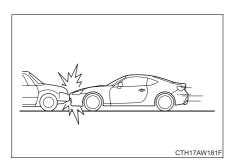
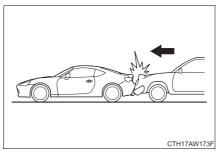
客室以外に側面から衝突されたとき

CTH17AW179F

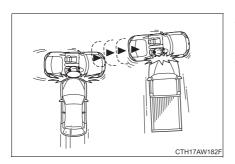
電柱などに衝突したとき

CTH17AW180F

側面にバイクが真横から衝突したとき

● 次のような場合は SRS サイドエアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。

CTH17AW174F

横転や転覆したとき

停車中や走行中の車に正面から衝突したとき

後ろから衝突されたとき

作動しないとき

次のようなときは作動しません。

一度SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンシールドエアバッグが作動した後の衝突

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS　エアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。(SRS カーテンシールドエアバッグを除く)

●SRS エアバッグは一度だけ膨らみ、一度作動すると、2 回目以降の衝突では再作動しません。

●SRS エアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。

●SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物(カスなど)が目などに付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。皮ふの弱い方などは、まれに皮ふを刺激する場合があります。

●SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

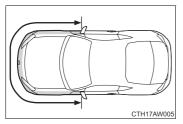
●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイド部の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品(ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター)も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

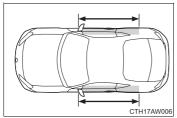
●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

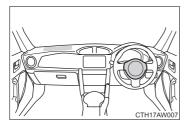
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

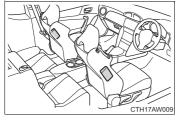
次のような場合には、修理・点検が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

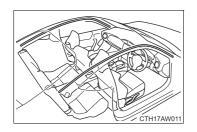
●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

CTH17AW005

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTH17AW006

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

CTH17AW007

●ハンドルのパッド部分・助手席 SRS エアバッグのカバー部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

CTH17AW009

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

CTH17AW011

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとってください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●正しい乗車姿勢になるようシート位置、ハンドル位置を調整してください。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

警告

■SRS エアバッグについて

●６歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずトヨタ純正チャイルドシートを使用してください。
トヨタ純正チャイルドシートの使用方法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

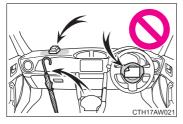
■SRS エアバッグについて

CTH17AW017

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

CTH17AW019

●助手席やリヤ席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

CTH17AW021

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない

CTH17AW023

●ドア・フロントガラス・ドアガラス・リヤクォーターガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレールなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く →P. 315）

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ドア・ドアパネル・ドアトリム・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢、体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0：10kgまで
グループ0+：13kgまで
グループⅠ：9～18kg
グループⅡ：15～25kg
グループⅢ：22～36kg

この本では代表的な次の2種類の子供専用シートを固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

チャイルドシート

CTH17AW033

ECE R44 基準のグループ 0^{+}、Ⅰに相当

ジュニアシート

CTH17AW034

ECE R44 基準のグループⅡ、Ⅲに相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置	
	フロントシート	リヤシート
	助手席	左右席
0（10kg まで）	×	×
0+（13kg まで）	×	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	L1	U
Ⅱ（15 ～ 25kg）	L2	U
Ⅲ（22 ～ 36kg）	L2	U

● 上表に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

L1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」に適しています。

L2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正　ジュニアシート」に適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	×
0^{+}（13kg まで）	E	ISO/R1	×
	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IL1
Ⅱ （15 ～ 25kg）		(1)	×
Ⅲ （22 ～ 36kg）		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1)：サイズ等級表示（A から G）のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO tether」に適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用ください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→ P. 101) を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 102) を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子様の体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例１)：体重が 12 kgの場合、質量グループは「0 +」になります。

(例２)：体重が 15kg の場合、質量グループは「Ⅰ」になります。

手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例１)：質量グループが「0 +」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

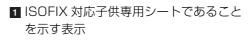
(例２)：質量グループが「Ⅰ」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B 1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。

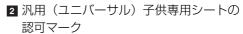
子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

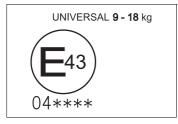
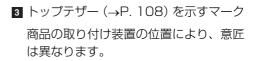
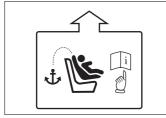
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。

1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

サイズ等級が示されています。(表示される文字は、製品により異なります)

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。

2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

3 トップテザー (→P. 108) を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●シートをいちばんうしろに下げる

●背もたれを直立状態にする

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

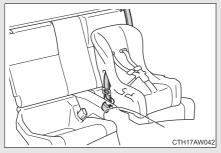
■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

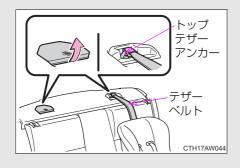
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱書に従ってください。

CTH17AW042

シートベルトによる取り付け
(→ P. 109)

CTH17AW043

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー (→ P. 109)

リヤシートのそれぞれの座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)

CTH17AW044

トップテザーアンカー
(→ P. 109)

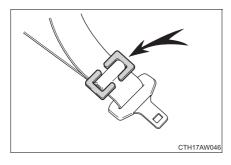
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

シートベルトで固定する

CTH17AW045

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。

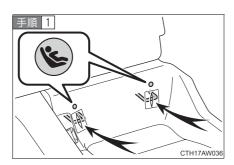
チャイルドシートに付属の取扱書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

CTH17AW046

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ　品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

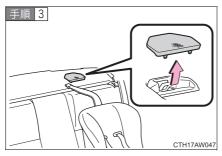
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

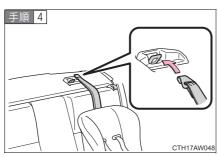
CTH17AW036

固定専用バーの位置を確認する

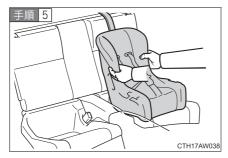
固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、商品付属の取扱書に従ってください。

トップテザーアンカーのフタを取りはずす

はずしたフタはなくさないように、保管しておいてください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

チャイルドシートの大きさや形状によっては、先に固定専用バーにチャイルドシートを取り付けると、テザーベルトが装着できないことがあります。
その場合は、あらかじめテザーベルトをトップテザーアンカーにひっかけてからチャイルドシートを取り付け、最後にテザーベルトを締めてください。

警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

- お子さまをシートベルトであそばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
サンバイザーに同内容の警告文が表示されています。併せて参照してください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■**チャイルドシートを使用しないときは**

●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→P. 109）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

運転するときに

2

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける

→P. 129，138

■ 発進する

オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 141）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 152）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする（→P. 148）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 152）

手順 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 141）

マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にします。（→P. 148）

■駐車する

オートマチック車

手順 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 シフトレバーをPにする（→P. 141）

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 152）

手順 4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジンスイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 シフトレバーをNにする（→P. 148）

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 152）

手順 4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジンスイッチを“LOCK”にしてエンジンを停止する
スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしてエンジンを停止する

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを1速またはRにし、輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速にする

手順 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について（オートマチック車）

以下の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●カーブを走行しているとき

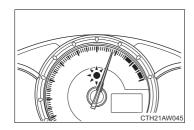
●ブレーキペダルを強めに踏んだとき

■エンジン始動後の音について

エンジン始動後しばらくは、音の演出と環境性能を確保するため、吸排気音が大きくなり、振動が増す場合がありますが、異常ではありません。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

■REV インジケーター★

設定したエンジン回転数に到達したことを、表示灯の点灯とブザーの吹鳴でお知らせします。(→P. 164)
(設定にかかわらず、エンジン回転数がレッドゾーンに入った場合は表示灯が点滅します。)

警告

■クリープ現象について(オートマチック車)

エンジンがかかっているとき、アクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象を、クリープ現象といいます。

- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が高くなるため、クリープ現象が強くなることがありますので、ブレーキペダルを確実に踏んでください。
  必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

★:仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■**運転するときは**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま運転しないでください。ブレーキやクラッチの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションにいれたまま惰性で後退したり、R にいれたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

警告

●マニュアル車では、車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーをD（オートマチック車）または1速（マニュアル車）に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●マニュアル車では、クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。車両が飛び出して、思わぬ事故につながるおそがあり危険です。

●走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 342を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 142，148）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**すべりやすい路面を運転するときは**

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**シフトレバーを操作するときは**

●オートマチック車では、アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●シフトレバー周辺にものを置かないでください。誤操作の原因になります。

●掃除等により、シフトブーツを引き出した際は、もとに戻してください。シフトブーツが引き出されたままだと、シフトレバーが操作しにくくなるおそれがあります。

■**継続的にブレーキ付近から警告音(キーキー音)が発生したときは**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■停車するときは

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●長時間エンジンをかけたままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

●オートマチック車では、車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

⚠警告

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをP（オートマチック車）にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

●降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するときは

必ずエンジンを止めてください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**ブレーキをかけるときは**

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは２つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

注意

■運転中は（オートマチック車）

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■運転中は（マニュアル車）

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。

●クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。

・クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない
・1 速以外での発進は避ける
・坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままで走行しない

●車がまだ動いているときに R に入れないでください。
クラッチ・トランスミッション・ギヤに損傷を受けるおそれがあります。

●クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

■駐車するときは（オートマチック車）

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

注意

■**部品の損傷を防ぐために**

● パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいに回した状態を長く続けないでください。

● ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

● オートマチック車では 5 秒以上空ぶかしをしないでください。
ブレーキペダルを踏んでいるまたは輪止めをしている状態で、シフトレバーが P または N 以外にあると、トランスミッションフルードの温度が上昇し、オーバーヒートするおそれがあります。

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

● ハンドルがとられる

● 異常な振動がある

● 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 303、312 をご覧ください。

■**冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

● エンストする

● 電装品がショートする

● 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

● ブレーキの効き具合

● エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

● プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ （スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動または“エンジンスタートストップ”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ エンジンのかけ方

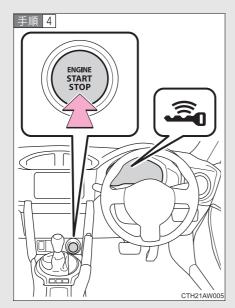
オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

シフトレバーが P 以外の位置にあるとエンジンを始動させることができないことがあります。（→P. 141）

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

スマートエントリー & スタートシステム表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

“エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 10 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

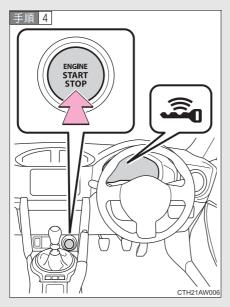
“エンジン スタート ストップ” スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

手順 3 クラッチペダルをしっかり踏む

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 10 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでクラッチペダルを踏み続けてください。

“エンジンスタートストップ”スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

■ エンジンの停止方法

オートマチック車

手順 1 車両を停止させる

手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 152）

手順 4 ブレーキペダルから足を離す

手順 5 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

手順 6 スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

マニュアル車

手順 1 車両を停止させる

手順 2 シフトレバーを N の位置にする

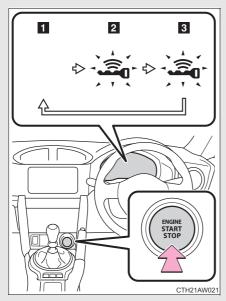
手順 3 パーキングブレーキをかける（→P. 152）

手順 4 クラッチペダルから足を離す

手順 5 “エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

手順 6 スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

■“エンジンスタートストップ”スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダル（オートマチック車）またはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずに“エンジンスタートストップ”スイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります。）

1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯します。

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※：オートマチック車：シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止したときは(オートマチック車)

シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止させた場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードはアクセサリーモードになりOFFになりません。以下の手順でOFFにしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーをＰの位置にする

手順 3 スマートエントリー＆ スタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、“エンジン スタート ストップ”スイッチを1回押す

手順 4 スマートエントリー＆ スタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

知識

■自動電源OFF機能

オートマチック車

車を停車しシフトレバーをＰの位置にして、1時間以上アクセサリーモードまたはイグニッション ON モード（エンジン始動していない状態）にしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ”スイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

マニュアル車

1時間以上アクセサリーモードかイグニッション ON モード（エンジン始動していない状態）にしたままにしておくと、“エンジンスタートストップ”スイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■“エンジン スタート ストップ”スイッチの操作について

“エンジン スタート ストップ”スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 34

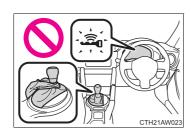
■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 30

■ご留意いただきたいこと

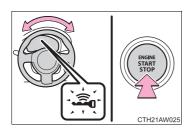
→P. 31

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P. 75)
トヨタ販売店へ連絡してください。

オートマチック車：シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとステアリングロック機能が作動しエンジンを始動することができないことがあります。スマートエントリー & スタートシステム表示灯が緑色に速く点滅します。

■ステアリングロックについて

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“エンジン スタート ストップ”スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色に速く点滅します。

オートマチック車

シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

マニュアル車

ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が黄色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 274

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは

→P. 331

■バッテリー交換などでバッテリー端子を再接続した直後は

エンジンが始動しないことがあります。その場合は“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにし、10 秒以上経過してからエンジンを始動してください。エンジン始動直後はアイドリングが不安定になることがありますが、異常ではありません。

⚠警告

■エンジンを始動するときは

●必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●エンジン始動操作をしたとき、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色に速く点滅しているときは、けん引等も含め絶対に車両の移動はしないでください。ステアリングロックが解除されていない状態のため、ハンドル操作ができず思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、“エンジン スタート ストップ”スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→P. 342)
ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■ **バッテリーあがりを防止するために**

● エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

● スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が消灯していない場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF になっていません。“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

● オートマチック車：シフトレバーがＰ以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ **エンジンを始動するとき**

● エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

● もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ **“エンジン スタート ストップ”スイッチの操作について**

“エンジン スタート ストップ”スイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

■ エンジンのかけ方

オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 運転席に座ってブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

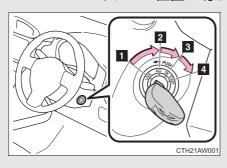
マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

手順 3 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

■ エンジンスイッチの位置の切りかえ

1 “LOCK”(OFF)
- ステアリングロックがかかります。
- キーを抜き挿しすることができます。
（オートマチック車は、シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しできます）

2 “ACC”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

3 “ON”

すべての電装品が使用できます。

4 “START”

エンジンが始動できます。

知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

手順 1 シフトレバーが N（マニュアル車）または P（オートマチック車）の位置にあることを確認する

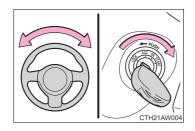
CTH21AW003

キーを押し込みながら“LOCK”までまわす

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P. 75）
トヨタ販売店へ連絡してください。

■ステアリングロックを解除するには

CTH21AW004

ステアリングを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■バッテリー交換などでバッテリー端子を再接続した直後は

エンジンが始動しないことがあります。その場合はエンジンスイッチを“ON”にし、10 秒以上経過してからエンジンを始動してください。エンジン始動直後はアイドリングが不安定になることがありますが、異常ではありません。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→P. 342)

注意

■バッテリーあがりを防止するために

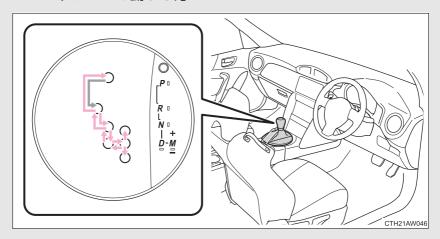
エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に 10 秒以上スターターをまわさないでください。スターターが故障する原因になります。
  エンジンがかからないときは、一旦エンジンスイッチを“LOCK”に戻し、10 秒以上放置してからもう一度まわしてください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション★

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

Ｐ とＤのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

Ｐ とＤのあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

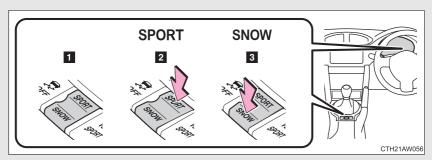
★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	メーター表示	目的
P（パーキング）		駐車またはエンジン始動
R（リバース）		後退
N（ニュートラル）		動力が伝わらない状態
D（ドライブ）		通常走行※ （1 速～ 6 速まで自動変速）
	（パドルシフトスイッチ操作時）	一時的なマニュアルモード走行 （→P. 146）
M（マニュアル）		マニュアルモード走行 （→P. 144）

※ D ポジションを使用することで、そのときの走行状況に適切なギヤ段が自動で選択されます。通常は D ポジションを使用してください。

■ 走行モードの選択

走行制御モードスイッチを押すことで、走行・使用条件にあわせて次のモードを選択できます。

1 通常走行モード

2 スポーツモード

SPORT 表示灯が点灯します。

スポーティな走行、カーブの多い山間地などの走行に適しています。

3 スノーモード

SNOW 表示灯が点灯します。

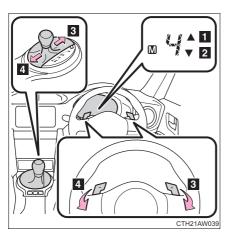
雪道など、すべりやすい路面での発進・走行に適しています。

スポーツモードまたはスノーモードを解除するときは、もう一度同じスイッチを押します。

マニュアルモード走行

シフトレバーを M ポジションにすると、マニュアルモードに切りかわります。

シフトアップ／ダウン可能表示灯が点灯しているあいだ、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★の－側または＋側の操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。

低すぎる車速でシフトアップ操作を行った場合は変速しません。

1 シフトアップ可能表示灯

2 シフトダウン可能表示灯

3 シフトアップ（+）

4 シフトダウン（−）

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作するごとに 1 速ずつ変速し、選択したギヤ段に固定されます。

シフトポジション･シフトレンジ表示灯に [M] が点灯し、1 ～ 6 速のあいだで選択されているギヤ段が表示されます。

マニュアルモードでは、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチ★を操作しない限り変速しません。ただし、次の場合は自動的に変速します。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- エンジンオイルが高温で、エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇した場合

★ : 仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■シフトレバーを P から他の位置にするときは

先にシフトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むと、レバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、シフトレバーを操作してください。

■キックダウンについて

D ポジションで走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと、自動的に低速ギヤ段に切りかわります（キックダウン）。強い加速力を必要とするときに使用します。
シフトレバーが M ポジションのときは、キックダウンは使用できません。キックダウンを使用する必要がある場合は、D ポジションに戻してください。

■シフトダウン制限警告ブザー

シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジン回転数がレッドゾーンに入る場合）でシフトダウン操作をした場合、ブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■スポーツモードについて

- スポーツモードでは、低ギヤ段を使用し、より高いエンジン回転数で変速します。
- シフトレバーが M ポジションでスポーツモードに切りかえた場合、SPORT 表示灯は点灯しますがスポーツモードの制御はしません。シフトレバーを D ポジションにしてください。

■スノーモードについて

スノーモードでは、すべり防止のため、1 速には入りません。

■走行モードの自動解除

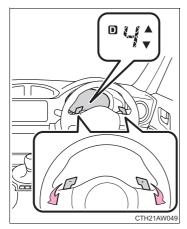
スポーツモードまたはスノーモードを選択して走行後、エンジンを切ると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■ **シフトレバーが P からシフトできないときは**

→P. 328

■ **停車したときのギヤ段について**

暖機中のアイドリング回転数が高いとき、かつ路面がすべりやすい状態のときは、自動的に 2 速での停止・2 速からの発進となる場合があります。

■ **一時的なマニュアルモード走行について（パドルシフトスイッチ装着車）**

シフトレバーが D ポジションのときにパドルシフトスイッチを操作することにより、一時的にマニュアルモード走行に切りかわります。

このとき、シフトポジション・シフトレンジ表示灯に [D] が点灯し、選択されているギヤ段が表示されます。

（エンジン回転数がレッドゾーン近くまで上昇したときは、自動的にシフトアップします。）

次のとき、一時的なマニュアルモード走行は解除され、通常走行に戻ります。

●一定時間以上走行したとき（操作時の走行状況により時間は異なります）

●停車したとき

●アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき

●アクセルペダルを奥まで踏み込んだとき

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているときに自動的に作動します。(パドルシフトスイッチを操作したりシフトレバーを M ポジションにすると、機能が解除されます。)

警告

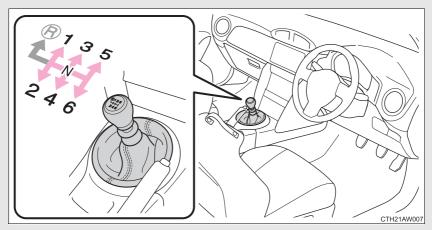
■すべりやすい路面では

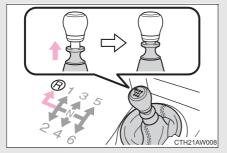
急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

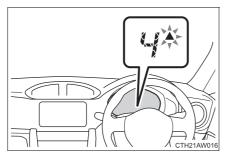
■誤操作を防ぐために

パドルシフトスイッチにアクセサリーなどをかけないでください。
パドルシフトスイッチが不意に動くおそれがあります。

マニュアルトランスミッション★

■ シフトレバーの動かし方

クラッチペダルをしっかり踏み、シフトレバーをゆっくり操作します。

■ R へのシフト操作

プルカラーを引き上げながら、R に入れます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

シフトアップインジケーター

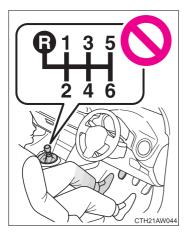
燃費効率の良い運転ができるように、シフトアップインジケーターが 3 回点滅し、シフトアップのタイミングをお知らせします。

初期設定は非表示になっています。表示／非表示を切りかえることができます。(→P. 156)

知識

■リバース警告ブザー

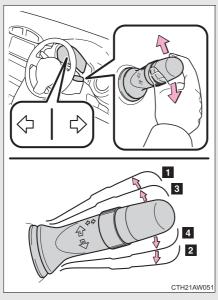
シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■トランスミッションの損傷を防ぐために

●クラッチペダルを踏まずにシフトレバーを操作しないでください。

●R へシフトするとき以外は、プルカラーを上へ引かないでください。

●R へシフトするときは、車が停止した状態で行ってください。

方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

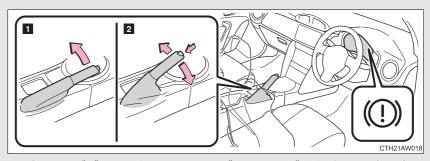
■作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながらパーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

2 パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

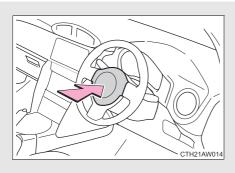
→P. 186

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

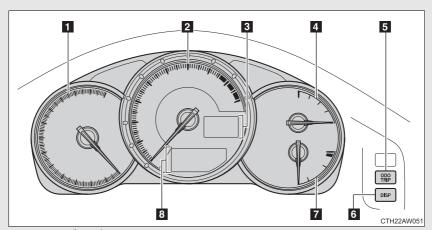
ホーン（警音器）

CTH21AW014

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 62）

計器類

1 アナログスピードメーター

車両の走行速度を示します。

2 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

3 デジタルスピードメーター★

車両の走行速度を示します。

4 燃料計

燃料残量を示します。

5 “ODO/TRIP”スイッチ

→P. 155

6 “DISP”スイッチ

→P. 163

7 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

★: 仕様により異なる装備やオプション装備

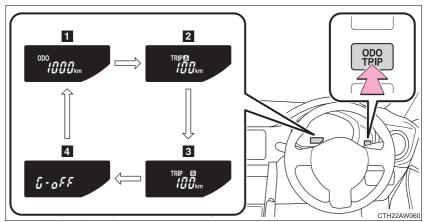
8 オドメーター、トリップメーター、マルチインフォメーションディスプレイ

オドメーター：走行した総距離を表示します。

トリップメーター：リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

マルチインフォメーションディスプレイ：走行に関する様々な情報を表示します。（→P. 162）

表示の切りかえ

“ODO/TRIP”スイッチを押すごとに、次のように切りかわります。

1 オドメーター

2 トリップメーター A※1

3 トリップメーター B※1

4 MT シフト表示の設定画面※2（マニュアル車）
→P. 156

※1　表示中に“ODO/TRIP”スイッチを長押しすると、走行距離はリセットされ、0 に戻ります。

※2　エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、または“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモードまたは OFF のとき（スマートエントリー&スタートシステム装着車）のみ表示されます。

MT シフト表示の設定（マニュアル車）

シフトポジションインジケーターとシフトアップインジケーターの表示／非表示を切りかえることができます。

手順 1 “ODO/TRIP”スイッチを押して、設定画面を表示させる（→P. 155）

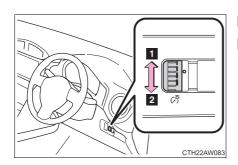
手順 2 “ODO/TRIP”スイッチを長押しする

長押しするごとに表示／非表示が切りかわります。

[G-on]：表示

[G-oFF]：非表示

インストルメントパネル照度調整ダイヤル

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

1 明るくなる

2 暗くなる

知識

■インストルメントパネル照度の減光制御について

車幅灯またはヘッドランプが点灯すると、インストルメントパネル照明は減光されます。ただし、インストルメントパネル照度調整ダイヤルを上側いっぱいにまわした状態では、車幅灯またはヘッドランプが点灯してもインストルメントパネル照明は減光されません。

⚠ **注意**

■**エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

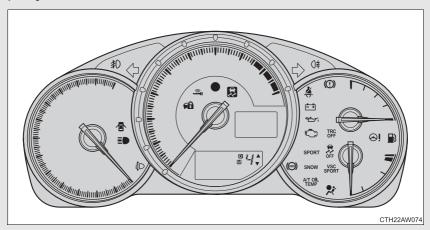
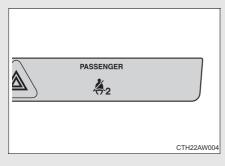
●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の針がHのレッドゾーンにはいったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→P. 338）

表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯／警告灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を表示しています。

メーター

センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→P. 151）

ハイビーム表示灯
（→P. 168）

フロントフォグランプ表示灯★（→P. 171）

リヤフォグランプ表示灯★
（→P. 171）

セキュリティ表示灯
（→P. 75, 77）

（緑色）
スマートエントリー&スタートシステム表示灯★
（→P. 129）

（オートマチック車）
シフトポジション・シフトレンジ表示灯（→P. 142）

（オートマチック車）
シフトアップ／ダウン可能表示灯（→P. 144, 146）

SPORT
（オートマチック車）
SPORT 表示灯
（→P. 143）

SNOW
（オートマチック車）
SNOW 表示灯
（→P. 143）

（マニュアル車）
シフトポジションインジケーター（→P. 148）

（マニュアル車）
シフトアップインジケーター（→P. 149）

※
（点滅）
スリップ表示灯
（→P. 177）

※
TRC OFF
TRC OFF 表示灯
（→P. 178）

※
OFF
VSC OFF 表示灯
（→P. 179）

※
VSC SPORT
VSC SPORT 表示灯（→P. 179）

REV インジケーター★
（→P. 119）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

※ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。（→P. 296）

※1　作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2　黄色に点滅した場合はシステム異常のおそれがあります。緑色に速く点滅した場合はステアリングロックが解除できていないことを示します。

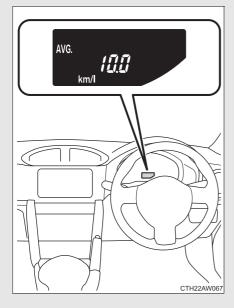
★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

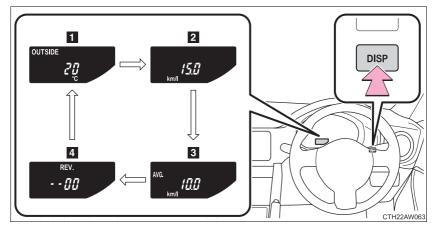
ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

- 外気温度
- 瞬間燃費
- 平均燃費
- REVインジケーター★の設定画面

★：仕様により異なる装備やオプション装備

表示の切りかえ

“DISP”スイッチを押すごとに、次のように切りかわります。

1 外気温度

→P. 220

2 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

3 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に“DISP”スイッチを長押しします。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

4 REV インジケーター★の設定画面※

→P. 164

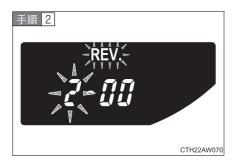
※ 停車時のみ表示されます。

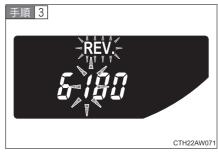
★：仕様により異なる装備やオプション装備

REV インジケーター★の設定

■ 設定の変更

REV インジケーターが点灯するエンジン回転数と、点灯時のブザー吹鳴あり／なしを設定できます。
回転数設定範囲：2000 ～ 7400 rpm

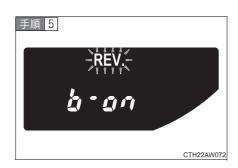
手順 1 “DISP”スイッチを押して、設定画面を表示させる（→P. 163）

“DISP”スイッチを長押しする

[REV.] と千の位が点滅します。点滅後、長押しするごとに数字がかわります。

“DISP”スイッチを押す

百の位が点滅します。点滅後、長押しするごとに数字がかわります。

手順 4 “DISP”スイッチを押す

ブザーが“ピッ”と鳴り、エンジン回転数の設定が完了します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

“DISP”スイッチを長押しする

長押しするごとにブザー吹鳴のあり／なしが切りかわります。

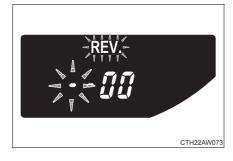
[b-on]：ブザー吹鳴あり

[b-oFF]：ブザー吹鳴なし

[b-oFF] から [b-on] に切りかえると、ブザーが“ピピピ”と鳴ります。

手順 6 “DISP”スイッチを押す

ブザーが“ピー”と鳴り、すべての設定が完了します。設定された状態が表示されます。

■ 設定の解除

設定回転数の千の位を[－]にしたあと、“DISP”スイッチを押す

知識

■表示条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

注意

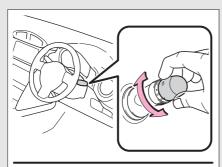
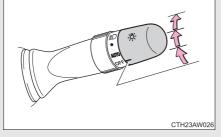
■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

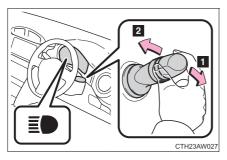
レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。

CTH23AW026

OFF 消灯

AUTO（コンライト装着車） ヘッドランプ、車幅灯などを自動点灯・消灯（エンジンスイッチが“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）のとき）

● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネル照明を点灯

（ヘッドランプ記号） 上記ランプとヘッドランプを点灯

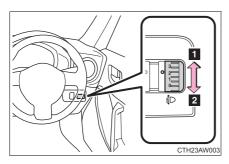
ハイビームにする

1 ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーを元の位置へもどすとロービームに戻ります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームに戻るまたは消灯します。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

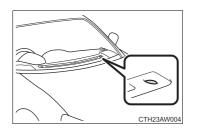
乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1
全乗員	トランクルーム満載時	2
運転者	トランクルーム満載時	2

知識

■ライトセンサー（コンライト装着車）

センサーの上に物を置いたり、センサーをふさぐような物をウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開けると、ヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または の位置にします。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にして運転席ドアを開けると、ヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにもどし、再度 ● または の位置にします。

■オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または“エンジン　スタート　ストップ”スイッチを OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。
以下のいずれかを行った場合、節電機能は解除されます。

・ エンジンスイッチを“ON”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または“エンジン　スタート　ストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしたとき
・ ランプスイッチを操作したとき
・ ドアを開閉したとき

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 355）

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

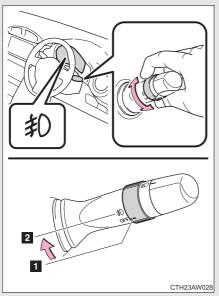
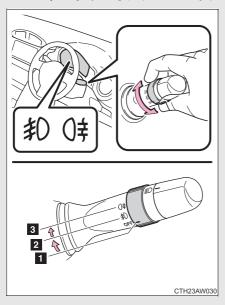
フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

フロントフォグランプスイッチ

1 フロントフォグランプを消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

★：仕様により異なる装備やオプション装備

フロント＆リヤフォグランプスイッチ

1 消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

3 フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプスイッチ

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

フロント＆リヤフォグランプスイッチ

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

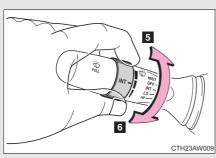
■リヤフォグランプについて

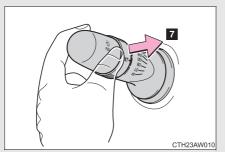
- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
  視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
  必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー & ウォッシャー

INTを選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

1 間欠作動（INT）
2 低速作動（LO）
3 高速作動（HI）
4 一時作動（MIST）

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）
6 間欠ワイパーの作動頻度（増）

CTH23AW010

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

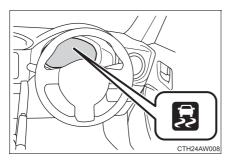
急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

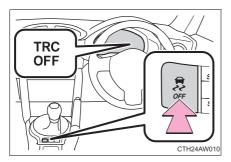
■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

TRC・VSC が作動しているとき

VSC・TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

TRC を停止するには

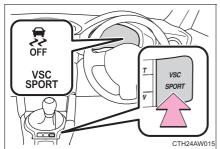
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、[OFF] を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

CTH24AW010

TRC を停止するにはスイッチを押す

TRC OFF 表示灯が表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

VSC SPORT モード

運転者が望むさまざまな運転を可能にするため２種類の制御モードを搭載し、VSC SPORT スイッチによって制御モードを選択することができます。
通常はノーマルモードで安心してスムーズに走ることができます。
スイッチを押すと、VSC SPORT モードに切りかわります。
VSC や TRC などの制御特性を調整することで、運転者のイメージにより近い運動性能を可能としながら、安心感を高いレベルで得ることができます。

VSC SPORT モード／ノーマルモード

VSC SPORT モードにすると、VSC SPORT 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには停車時に VSC OFF スイッチを押し３秒以上保持してください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態に戻ります。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“LOCK”にしたとき

●スマートエントリー&スタートシステム装着車：“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が 50km/h をこえたとき
但し、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。しばらくするともとの状態にもどります。

■VSC SPORTモードの自動解除

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

VSC SPORTモードを選択して走行後エンジンスイッチを“LOCK”にすると、自動でノーマルモードにもどります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

VSC SPORTモードを選択して走行後“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにすると、自動でノーマルモードにもどります。

⚠警告

■ABSの効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面や、マンホールのフタなどすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象※が発生したとき

※水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面のあいだに水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

■ABSが作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABSは制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRCが作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

⚠ 警告

■スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したらとくに慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 352）
異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC が正常に作動しません。
タイヤ・またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■**積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料がはいった容器
- スプレー缶

警告

■**荷物を積むときは**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● できるだけ荷物はトランクに積んでください。

● 次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、クラッチペダル・ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- ・運転席足元
- ・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
- ・パッケージトレイ
- ・インストルメントパネル
- ・ダッシュボード

● 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

● 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

● 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

● トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
  これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・ エンジンオイル
  - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

  4 輪とも必ず、指定サイズ・同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着し、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて →P. 241）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプや車両の屋根に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 雪道を走行したり、吹雪の中で駐車したときは、足まわりに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れやブレーキの効きが悪くなることがあります。付着している雪や氷を取り除いてください。
- 乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

● ドアガラスが凍結した状態でドア開閉を行うと、安全装置が作動し、ドア連動ガラス開閉機能が正常に作動しなくなる場合があります。その場合は、氷を溶かした後に、以下の作業を行ってください。

手順 1 ドアガラスを半分程度の位置まで下げる

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスが閉まったあとも、スイッチを1秒以上引き続ける

ガラス位置の再設定が行われ、安全装置作動状態が解除されます。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R、上り坂では 1 速に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後、約 100 m 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズ・同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

警告

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. エアコンとデフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

マニュアルエアコン★

設定の調整

手順 1 風量を調整するには、風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす

送風を止めるときはダイヤルを0の位置に合わせる。

手順 2 A/C ボタン非装着車：温度調整ダイヤルを右へまわすと、暖かくなります

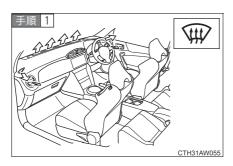
手順 2 A/C ボタン装着車：温度設定を変更するには、温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

A/C が押されてない場合は、送風または暖房で使用できます。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

手順 3 吹き出し口を切りかえるには、吹き出し口切りかえダイヤルをまわし吹き出し口を選ぶ

ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

吹き出し口切りかえダイヤルを の位置にする

自動的に外気導入に切りかわります。

手順 2 状況に応じて次の操作を行う

- 風量調節ダイヤルで風量を調整する
- 温度調節ダイヤルで温度を調整する
- A/C ボタン装着車：除湿機能が作動していないときは、A/C を押して作動させる

風量を強くし、送風温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

吹き出し口と送風について

CTH31AW056

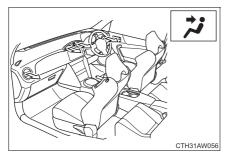
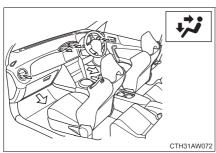
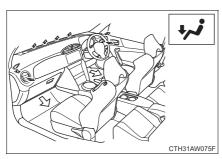
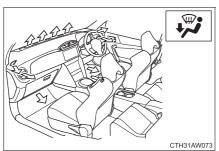
上半身に送風

CTH31AW072

上半身と足元に送風

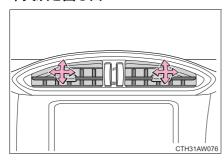
CTH31AW075F

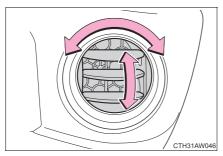
足元に送風

CTH31AW073

足元に送風・ガラスの曇りを取る

外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

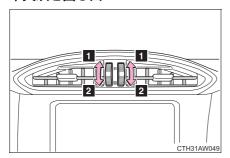
ボタンを押す度に外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、　の表示灯が点灯します。

風向きの調整

中央吹き出し口

風向きの調整

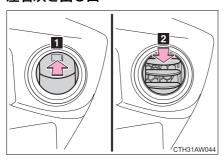
左右吹き出し口

風向きの調整

吹き出し口の開閉

中央吹き出し口

1 吹き出し口を開ける

2 吹き出し口を閉じる

左右吹き出し口

1 フタを開ける

2 フタを閉じる

知識

■ガラスの曇りについて

● A/C ボタン装着車：車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

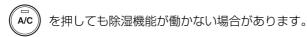
● A/C ボタン装着車：A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときは、内気循環にしておくことをおすすめします。

● A/C ボタン装着車：外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■外気温度が0℃近くまで下がったとき（A/C ボタン装着車）

A/C を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■エアコンフィルターについて

→P. 280

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

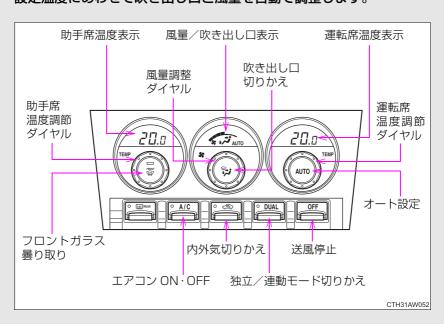
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オートエアコン★

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

オートエアコンを使うには

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。

手順 1 を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは運転席側の 温度調節ダイヤルを右（暖）へ、下げるときは左（冷）へまわす

手順 3 A/C を押す

A/C を押すたびに冷房・除湿機能の ON・OFF が切りかわります。（冷房・除湿機能が ON のとき A/C 表示灯が点灯します。）

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1 を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 を押す（ の表示灯が点灯します。）

手順 3 運転席側の設定温度を上げるときは、運転席側の温度調節ダイヤルを右（暖）へ、下げるときは左（冷）へまわす

助手席側の設定温度を上げるときは、助手席側の温度調節ダイヤルを右（暖）へ、下げるときは左（冷）へまわす

再び DUAL を押すと、連動モードになります。（ DUAL の表示灯が消灯します。）

手順 4 を押す

A/C を押すたびに冷房・除湿機能の ON・OFF が切りかわります。（冷房・除湿機能が ON のとき A/C 表示灯が点灯します。）

お好みの設定で使うとき

手順 1 風量をかえるには、風量調節ダイヤルを右（増）か 左（減）へまわす

風量は７段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF を押します。

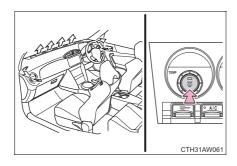
手順 2 設定温度をかえるには、温度を上げるときは、運転席側／助手席側の温度調節ダイヤルを右(暖)へ、下げるときは左(冷)へまわす

連動モード使用時、助手席側の温度調節ダイヤルをまわすか を押す（ DUAL の表示灯が点灯します。）と独立モードに切りかわります。

手順 3 吹き出し口を切りかえるには、 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

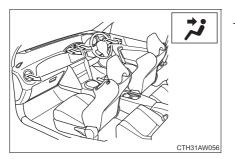
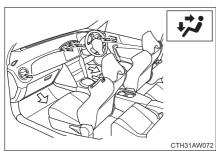
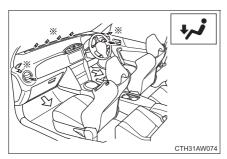
フロントウインドウガラスの曇りを取るには

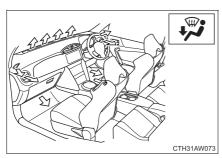
CTH31AW061

 を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に切りかわる場合もあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

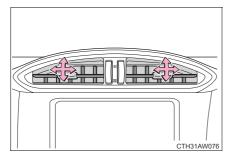
吹き出し口と送風について

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

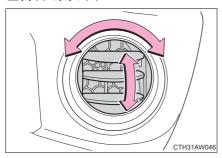
※ AUTO 設定のときのみ送風されます。

足元に送風・ガラスの曇りを取る

自動的に外気導入に切りかわる場合があります。

外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

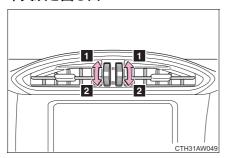
ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

風向きの調整

中央吹き出し口

風向きの調整

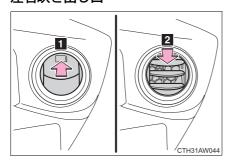
左右吹き出し口

風向きの調整

吹き出し口の開閉

中央吹き出し口

1 吹き出し口を開ける

2 吹き出し口を閉じる

左右吹き出し口

1 フタを開ける

2 フタを閉じる

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、をONにすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●をONからOFFにすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→P. 280

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界を妨げる場合があります。

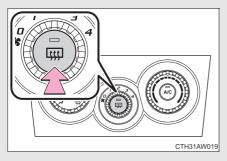
注意

■バッテリーあがりを防ぐために

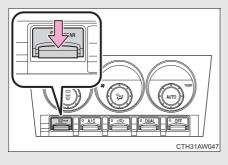
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター（曇り取り）

リヤウインドウデフォッガーはリヤウインドウの曇りを取るときにご使用ください。ミラーヒーター★はドアミラーから雨滴や霜を取るときにご使用ください。

マニュアルエアコン装着車

オン／オフ

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

オートエアコン装着車

オン／オフ

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■作動条件

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ミラーヒーター★について

リヤウインドウデフォッガーをオンにするとミラーヒーターも同時に作動します。

■カスタマイズ機能で連続作動にしたとき (オートエアコン装着車)

連続作動は 15 分間作動し、2 分間停止、再度 15 分間作動を繰り返します。ただし、2 分間の作動停止中も表示灯は点灯しています。作動を停止するときはリヤウインドウデフォッガーをオフにします。

■販売店で設定可能な機能 (オートエアコン装着車)

リヤウインドウデフォッガーを 15 分作動 / 連続作動に設定変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P. 355)

警告

■ミラーヒーター★作動中の警告

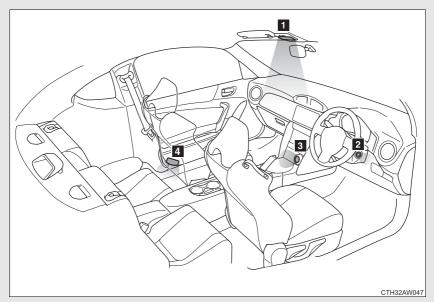
ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因になります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

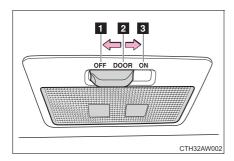
室内灯一覧

1 インテリアランプ（→P. 211）

2 エンジンスイッチ照明（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

3 “エンジン スタート ストップ” スイッチ照明（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

4 ドアカーテシーランプ★

★：仕様により異なる装備やオプション装備

インテリアランプ

1 ランプを消灯する

2 ドアポジション（ドア連動）をON にする

3 ランプを点灯する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

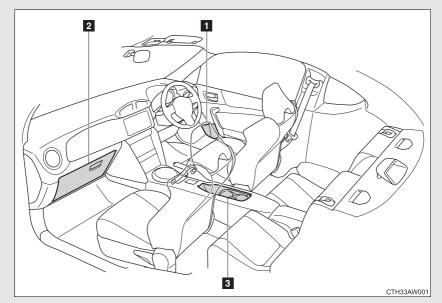
半ドア状態で以下のランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

- インテリアランプ（スイッチがドアポジションのとき）
- エンジンスイッチ照明（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）
- “エンジン スタート ストップ”スイッチ照明（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）
- ドアカーテシーランプ★

■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 355）

★：仕様により異なる装備やオプション装備

収納装備一覧

1 ボトルホルダー
2 グローブボックス
3 フロントカップホルダー★／フロントコンソールトレイ

⚠ 警告

■収納装備に放置してはいけないもの

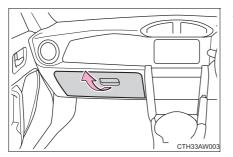
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

★：仕様により異なる装備やオプション装備

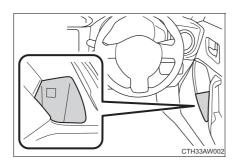
グローブボックス

CTH33AW003

グローブボックスを開けるには、レバーを引き上げる

警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

ボトルホルダー

知識

■**ボトルホルダーについて**

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

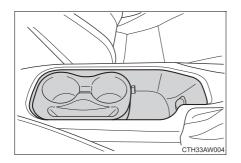
■**収納してはいけないもの**

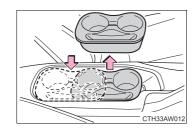
ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

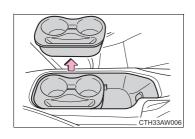
注意

■**収納してはいけないもの**

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

フロントカップホルダー（脱着式）★／フロントコンソールトレイ

知識

■フロントカップホルダーの位置を調整する

フロントカップホルダーを取りはずして位置を調整することができます。

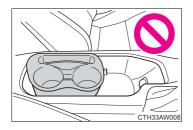
■フロントコンソールトレイの大きさを調整する

フロントカップホルダーを取りはずします。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

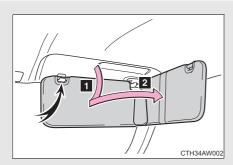
■**走行中の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転するときは、シフトレバーの操作のさまたげとならないようフロントカップホルダーを後方においてください。

- フロントカップホルダーの向きを逆向きにしないでください。
  フロントカップホルダーがフロントコンソールトレイに固定されず、シフトレバー操作のさまたげになります。

■**収納してはいけないもの**

フロントカップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

サンバイザー

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー★

CTH34AW003

カバーを開けて使用します。

バニティランプ装着車：カバーを開けるとランプが点灯します。

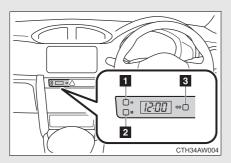
注意

■バッテリーあがりを防止するために（バニティランプ装着車）

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

1 “時”を調整する

2 “分”を調整する

3 “分”を 00 にする※

※（例）1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00

知識

■時刻が表示されるとき

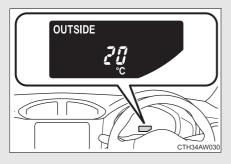
スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

外気温度表示

-40 ℃から 50 ℃のあいだで表示されます。

“DISP”スイッチを押し外気温度表示を表示させます。
(→P. 163)

知識

■外気温度が表示されるとき

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■“- -”が 1 分以上表示されたときまたは外気温度が表示されないときは

システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

アクセサリーソケット

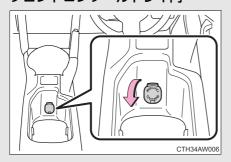
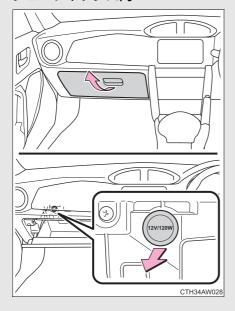
12 V 10 A（120W）以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フロントコンソールトレイ内

CTH34AW006

グローブボックス内★

CTH34AW028

★：仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■使用条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッションON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

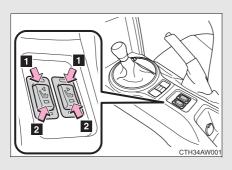
アクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A（120W）をこえないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

シートヒーター★

スイッチを押してフロントシートを暖める

作動するとインジケーターが点灯します。

1 早く暖めたいときに使います。暖まったら **2** の位置にしてください。

2 保温するときに使います。通常はこの位置で使用してください。

知識

■作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■使用しないときは

スイッチを中立の位置にしてください。インジケーターが消灯します。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■**やけどについて**

●低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。

・乳幼児・お子さま・年寄り・病人・体の不自由な方
・皮膚の弱い方
・疲労の激しい方
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

●シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。

●シートヒーターを必要以上に使用しないでください。
低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

注意

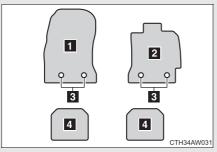
■**シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときは、スイッチを切ってください。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロント

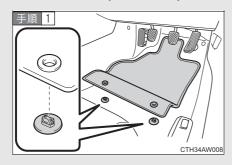
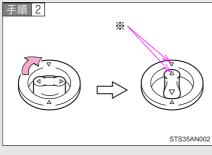
1 助手席用フロアマット

2 運転席用フロアマット

3 固定フック (クリップ) 取り付け穴

リヤ

4 リヤ席用フロアマット

■ 取り付け方 (フロント)

固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

固定フック（クリップ）上部レバーをまわして固定する

※△マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

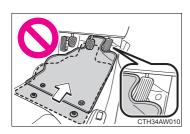
■**フロアマットを敷くときは**

●トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない

●フロント：固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する

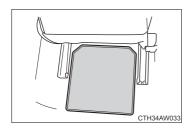
●他のフロアマット類と重ねて使用しない

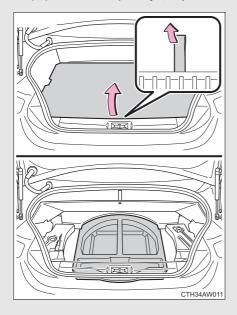
●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

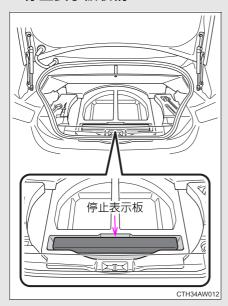
■**運転する前に**

●フロント：フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

●運転席：エンジン停止およびシフトレバーがＰ（オートマチック車）またはＮ（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

注意

■リヤのフロアマットを敷くときは

リヤのフロアマットの搭載位置を間違えると、フロントシートをスライドさせた時にフロアマットがシートレールなどに干渉し、車両またはフロアマットを破損するおそれがあります。

■ ラゲージアンダートレイ

ラゲージマット装着車：ラゲージマットを持ち上げる

■ 停止表示板収納スペース

停止表示板を収納することができます。

停止表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■収納について

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

警告

■停止表示板を収納するときは

確実に固定されていることを確認してください。
確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに停止表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お手入れのしかた

4

外装の手入れ

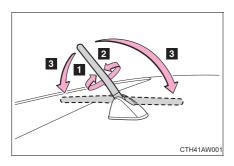
お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながらボデー、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボデーコート、ホイールコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■自動洗車機を使うときは

●ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取りつけて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

●リヤスポイラー装着車：洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。

●洗車の前に車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を痛めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパーなどの樹脂部品

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■**洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**排気管およびデュアルエキゾーストパイプについて**

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠ 注意

■**塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

●次のような場合はただちに洗車してください。

- 海岸地帯を走行したあと
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- 鳥のふん、樹液、コールタール、花粉、虫の死がいなどが付着したとき
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ほこり、泥などで激しく汚れたとき
- 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■**サイドシルプレート★の保護フィルムについて**

保護フィルムは必ずはがしてください。状況によっては錆の原因になるおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

注意

■ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけをおこなわないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、元に戻すときは、必ず助手席側から先に戻してください。

■アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機を使うとき

■アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取りつけてください。
- 洗車時などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取りつけてください。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませ、汚れをふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 56)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→P. 83)
  電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。
- エアコンなどの電装品や各種スイッチ、ならびにこれらの周辺の清掃には、シリコーン（ケイ素高分子化合物）を含有するケミカル剤を使用しないでください。
  これらの部品にシリコーン（ケイ素高分子化合物）が付着した場合は、電装品の故障の原因となるおそれがあります。

■革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

- 革についたほこり、砂、油汚れなどはすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。
- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

■インストルメントパネルの手入れをするときは

インストルメントパネル表面に細かい砂粒などが入り込んで布で拭き取れないときは、鉄粉除去用粘土を水でぬらさず使用してください。ブラシやスポンジなどを使用して無理に拭き取ろうとすると、表面を傷付けたりスポンジの破片が残ってしまうおそれがあります。

アルカンターラ® の手入れ★

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 日常的なお手入れ

このお手入れは定期的（1ヶ月に 1 回程度）に行うと効果的です。

手順 1 布などに 40 ℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り全体を拭く

毛羽が強く乱れないように拭き取ってください。また、布はきれいなものを用意し、一度拭き取った布の汚れはすすいで充分に取り除いてからご使用ください。

手順 2 乾いたらエチケットブラシなどで毛並みを整える

■ 液体汚れについて

- 液体がこぼれた場合は、ティッシュペーパーなどを軽くあてて吸い取る
- 乾燥して固着してしまった泥やコーヒーなどの汚れは、エチケットブラシなどで汚れ部分を軽くブラッシングして取り除く

  その後、掃除機で乾燥汚れを吸い取ることをおすすめします。

これらの方法で汚れが取れない場合は、以下の手順で汚れを取り除いてください。

手順 1 布などに 40 ℃程度のぬるま湯をしみ込ませて固く絞り、汚れ部分を外側から内側に各方向から軽く拭く

毛羽が強く乱れないように拭き取ってください。また、布はきれいなものを用意し、常にきれいな部分を使用してください。

手順 2 表面の毛羽が乱れた場合は、エチケットブラシなどで軽くブラッシングする

手順 3 表面を完全に乾燥させる

★ : 仕様により異なる装備やオプション装備

■油性の汚れについて

用意するもの

- ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布
- 乾いた布

手順 1 乾いた布やティッシュペーパーで汚れが広がらないようにできるだけ拭き取る

手順 2 ベンジン、ぬるま湯または純正エチルアルコール（果実酒用）をしみ込ませた布で汚れ部分を外側から内側にたたいた後、乾いた布で浮いた汚れをたたきながら吸い取る

手順 3 表面の毛羽が乱れた場合は、エチケットブラシなどで軽くブラッシングする

知識

■毛羽の付着汚れを取り除くときは

ほこりなどの付着汚れはエチケットブラシなどで軽くブラッシングして取り除いてください。それでも取れない場合は粘着テープを使用して取り除いてください。

注意

■液体汚れを吸い取るときは

ティッシュペーパーなどを強く押さえすぎないでください。汚れがシートにしみ込み取りにくくなるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩擦を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000 km ごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

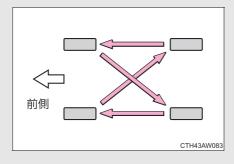
● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

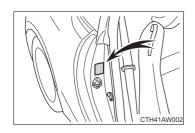
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションの仕方

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

前輪：240 kPa (2.4 kg/cm^2)

後輪：240 kPa (2.4 kg/cm^2)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■低偏平タイヤについて（17 インチタイヤ装着車）

雪道や凍結路では、普通のタイヤと比べてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■低偏平タイヤの空気圧点検（17 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。とくに空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回（最低でも 1ヶ月に 1 回）、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●4 輪とも必ず、指定サイズ・同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。

●メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。

●ラジアルタイヤ以外を使用しないでください。

●サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●破裂などの修理できない損傷をあたえる

●車が横すべりする

●車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

⚠ 警告

■タイヤ交換時の注意

●必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

注意

■低偏平タイヤについて（17 インチタイヤ装着車）

低偏平タイヤ付きホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため以下のことにご注意ください。

●適切なタイヤ空気圧で使用してください。空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

●路上にあいた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。

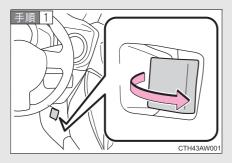
■走行中に空気漏れが起こったら

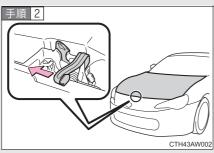
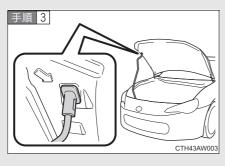
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮きあがります。

レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける

ボンネットステーをステー穴に挿し込む

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命の危険または重大な傷害につながるおそれがあります。

■けがを防ぐために

- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：ボンネットを開ける前にエンジンスイッチを"LOCK"にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：ボンネットを開ける前に"エンジンスタートストップ"スイッチをOFFにしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
  重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ステーを外してホルダーに収め、ボンネットをゆっくり降ろしてボディに近くなったら（約30 cm）手を離します。
  確実にロックされていることを確認してください。

注意

■ **ボンネットを開けるときには**

ワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。

■ **ボンネットへの損傷を防ぐために**

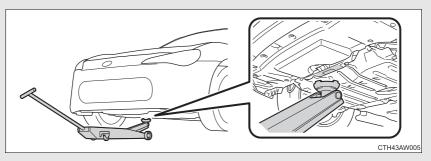
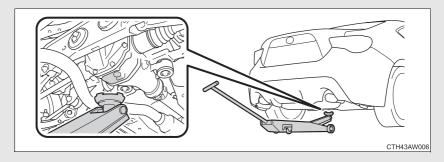
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

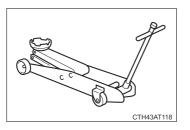
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる時は、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■車両を持ち上げるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

CTH43AT118

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ちあげる

●ガレージジャッキを使用するときは､必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり､もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび､自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、オートマチック車はシフトレバーを P、マニュアル車はシフトレバーを R にする

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ちあげると､車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ちあげない

●車両を持ちあげるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

●車両を持ち上げるときは、車両両側に十分なスペースを確保してください。
ジャッキアップ前と後で、車両の位置が移動することがあります。

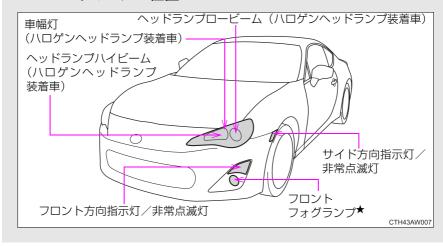
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確かめてください。（→P. 353）

■ フロントのバルブ位置

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置

リヤ方向指示灯／非常点滅灯

番号灯

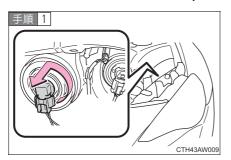
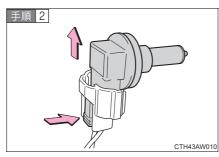
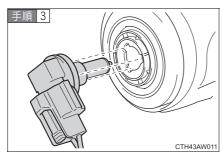
リヤフォグ
ランプ★

後退灯

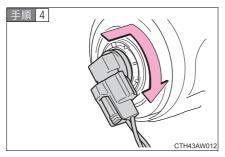
CTH43AW008

★：仕様により異なる装備やオプション装備

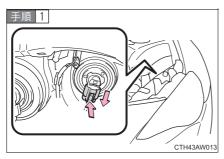
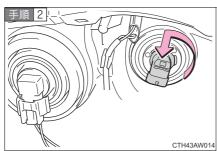
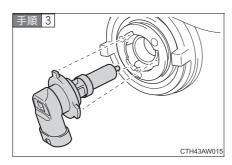
電球交換の仕方

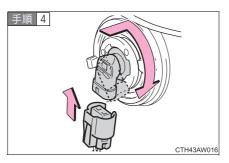
■ ヘッドランプロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

電球を交換し、ソケットを取り付ける

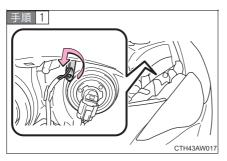
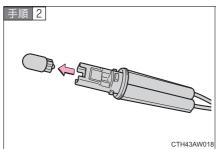
取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。

ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプロービームを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

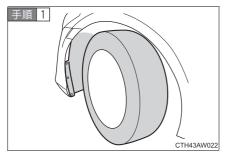
■ ヘッドランプハイビーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）

コネクターを取りはずす

電球を取りはずす

新しい電球を取り付ける

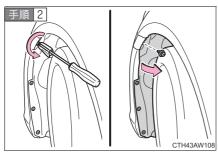
取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。

電球をまわして固定し、コネクターを取り付ける

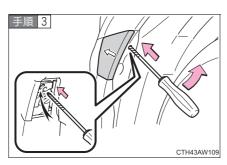
電球を軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

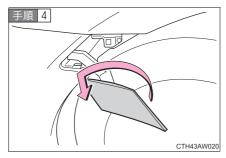
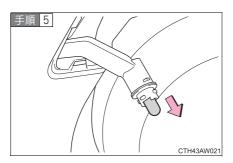
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ サイド方向指示灯／非常点滅灯

交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

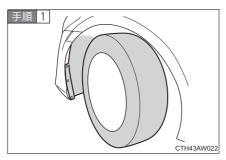
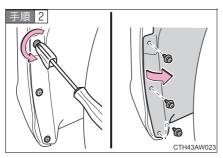
手が十分に入る程度にハンドルをまわしてください。

クリップを取りはずしてフェンダーライナーをめくる

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ランプ本体のツメをはずす

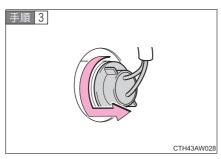
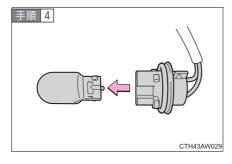
ドライバーを穴にさしこみ強めに押しながら、車両内側に動かしてください。

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

ランプ本体を引き出し、レンズを取りはずす

電球を取りはずす

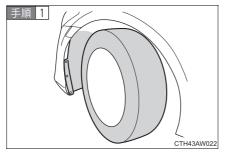
手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

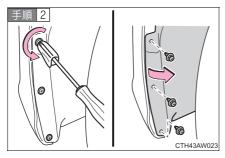
■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

手が十分に入る程度にハンドルをまわしてください。

クリップを取りはずしてフェンダーライナーをめくる。

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

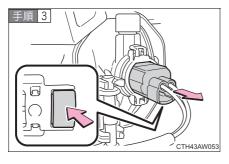
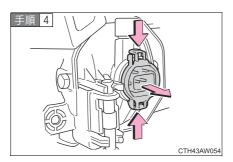
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロントフォグランプ★

交換するランプの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる

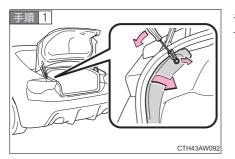
手が十分に入る程度にハンドルをまわしてください。

クリップを取りはずし、フェンダーライナーをめくる

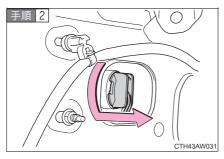
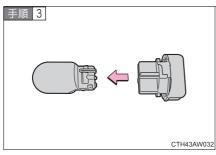
傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

コネクターを取りはずす

★：仕様により異なる装備やオプション装備

電球を取りはずす

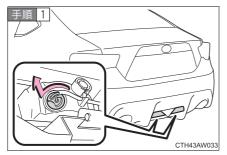
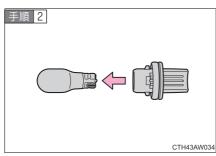
手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

ラゲージマット装着車は、クリップを取りはずし、カバーをめくる

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

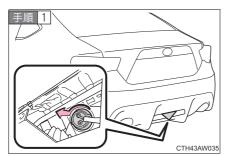
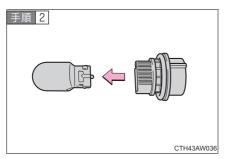
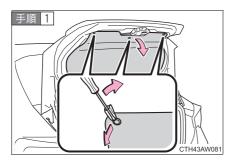
手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

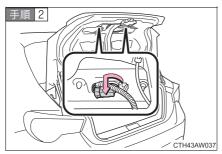
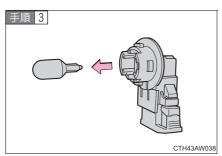
■ リヤフォグランプ★

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ 番号灯

トランクパネルカバー装着車は、クリップを取りはずし、カバーをめくる

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプロービーム／ハイビーム（ディスチャージバルブ）
- 車幅灯（ディスチャージヘッドランプ装着車）
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- 尾灯

知識

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ランプ内に水がたまっている

■ ディスチャージヘッドランプ★の作動

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常に戻ると再点灯します。

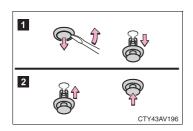
■ LED ランプについて

尾灯・制動灯・車幅灯（ディスチャージヘッドランプ装着車）・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ 電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。
一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

■ トランク内クリップの取り付け、取りはずし方

1 取りはずす
2 取り付ける

警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
  やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
  プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
  感電による重大な傷害の原因となります。

■後退灯・リヤフォグランプ★を交換するときは

エンジンを停止して、十分に排気管が冷めてからにしてください。近くに排気管があるため、やけどをするおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■ディスチャージヘッドランプ★について

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 25000 ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

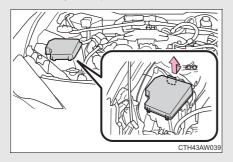
手順 1 **スマートエントリー＆スタートシステム非装着車**

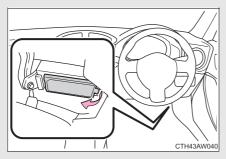
エンジンスイッチを“LOCK”にする

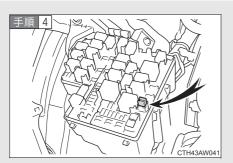
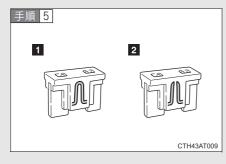
スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする

手順 2 ヒューズボックスを開ける

エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

運転席足元

カバーを取りはずす

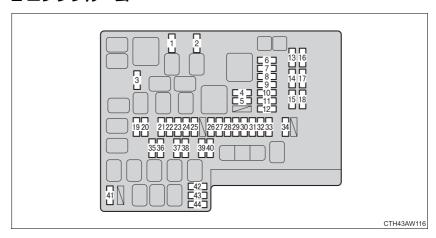
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 270）で確認する

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズが切れていないか点検する

1 正常

2 ヒューズ切れ

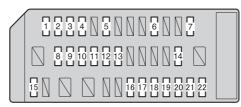
ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	MIR HTR	7.5 A	ミラーヒーター
2	RDI	25 A	電動クーリングファン
3	(PUSH-AT)	7.5 A	エンジンコントロールユニット
4	WASHER	10 A	ウォッシャー
5	WIPER	30 A	ワイパー
6	RR DEF	30 A	リヤウインドウデフォッガー
7	(RR FOG)	10 A	リヤフォグランプ
8	D FR DOOR	25 A	パワーウインドウ (運転席側)
9	(CDS)	25 A	電動クーリングファン
10	D-OP	25 A	—
11	ABS NO. 2	25 A	ABS
12	D FL DOOR	25 A	パワーウインドウ (助手席側)
13	SPARE	※	予備ヒューズ
14	SPARE	※	予備ヒューズ
15	SPARE	※	予備ヒューズ
16	SPARE	※	予備ヒューズ
17	SPARE	※	予備ヒューズ
18	SPARE	※	予備ヒューズ
19	ST	7.5 A	始動系
20	ALT-S	7.5 A	充電系

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
21	(STR LOCK)	7.5 A	ステアリングロック
22	D/L	20 A	ドアロック
23	ETCS	15 A	エンジンコントロールユニット
24	(AT+B)	7.5 A	トランスミッション
25	(AM2 NO. 2)	7.5 A	スマートエントリー&スタートシステム
26	EFI (CTRL)	15 A	エンジンコントロールユニット
27	EFI (HTR)	15 A	EFI システム
28	EFI (IGN)	15 A	始動系
29	EFI (+B)	7.5 A	エンジンコントロールユニット
30	HAZ	15 A	方向指示灯、非常点滅灯
31	MPX-B	7.5 A	オートエアコン、メーター
32	F/PMP	20 A	EFI システム
33	IG2 MAIN	30 A	SRS エアバッグシステム、エンジンコントロールユニット
34	DCC	30 A	インテリアランプ、ワイヤレスドアロック、メインボデー ECU
35	HORN NO. 2	7.5 A	ホーン
36	HORN NO. 1	7.5 A	ホーン
37	H-LP LH LO	15 A	左側ヘッドランプ（ロービーム）
38	H-LP RH LO	15 A	右側ヘッドランプ（ロービーム）
39	H-LP LH HI	10 A	左側ヘッドランプ（ハイビーム）
40	H-LP RH HI	10 A	右側ヘッドランプ（ハイビーム）
41	A/B MAIN	15 A	SRS エアバッグシステム
42	ECU-B	7.5 A	ワイヤレスドアロック、メインボデー ECU
43	DOME	20 A	インテリアランプ
44	IG2	7.5 A	エンジンコントロールユニット

※：予備ヒューズは、それぞれ 7.5 A、10 A、15 A、20 A、25 A、30 A のいずれかが挿さっています。

■ 運転席足元

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECU ACC	10 A	メインボデーECU、ドアミラー
2	P/POINT No.2	15 A	アクセサリーソケット
3	PANEL	10 A	イルミネーション
4	TAIL	10 A	尾灯
5	DRL	10 A	—
6	STOP	7.5 A	制動灯
7	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
8	HEATER-S	7.5 A	エアコン
9	HEATER	10 A	エアコン
10	FR FOG LH	10 A	左側フロントフォグランプ
11	FR FOG RH	10 A	右側フロントフォグランプ
12	BK/UP LP	7.5 A	後退灯
13	ECU IG1	10 A	ABS、エレクトリックパワーステアリング
14	AM1	7.5 A	始動系
15	AMP	15 A	—
16	AT UNIT	15 A	トランスミッション
17	GAUGE	7.5 A	メーター、スマートエントリー&スタートシステム
18	ECU IG2	10 A	エンジンコントロールユニット
19	SEAT HTR LH	10 A	シートヒーター(助手席側)
20	SEAT HTR RH	10 A	シートヒーター(運転席側)
21	RADIO	7.5 A	—
22	P/POINT No.1	15 A	アクセサリーソケット

知識

■ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 251）
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

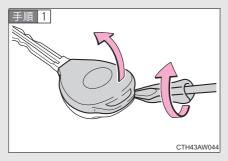
キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

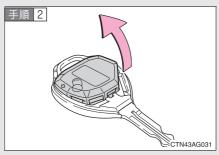
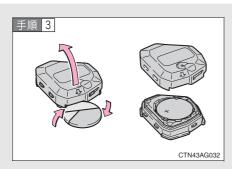
■ 用意するもの

● マイナスドライバー

● リチウム電池
・CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）
・CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

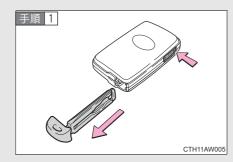
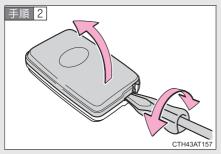
■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

カバーをはずす

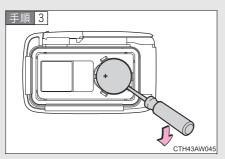
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタンがはずれないように、ボタン面を下にしてください。

モジュールを取り出す

コインなどを使ってカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

メカニカルキーを抜く

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池 CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、CR1632（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の入手

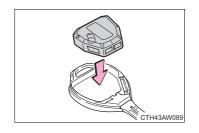
電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム★、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■モジュールをもどすときは（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

モジュールをもどすときは、真上から置いてください。横から滑らすように置くと、キーボタン作動が正常に働かないことがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

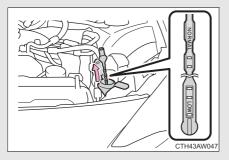
■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

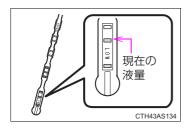
●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ウォッシャー液の補給

液面が LOW の位置に近付いたらウォッシャー液を補給する

知識

■ゲージの使い方

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。
残量がゲージの先端から２つめの穴部より下まわった（ＬＯＷ の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ **ウォッシャー液の薄め方**

必要に応じて水で薄めてください。
水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの交換

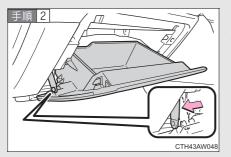
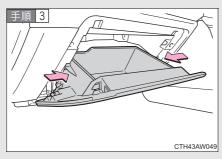
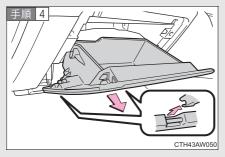
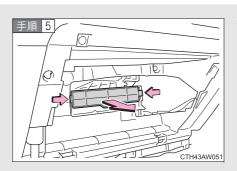
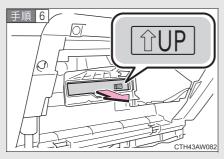
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 **スマートエントリー & スタートシステム非装着車**

エンジンスイッチを“LOCK”にする

スマートエントリー & スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする

グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

グローブボックス側面を内側に押して上部のツメをはずす

グローブボックス下部のツメをはずして取りはずす

フィルターカバーを取りはずす

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは 12000km または 12ヶ月毎に交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

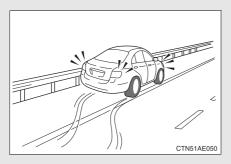
- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

トラブルが起きたら 5

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→P. 286）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

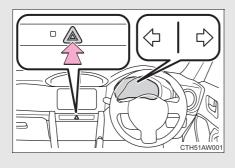
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→P. 287）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯は、トヨタ販売店で購入することができます。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

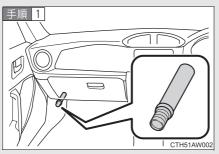
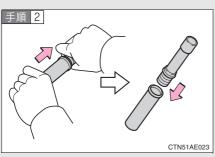
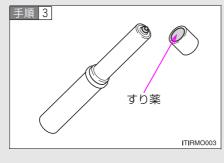
すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。

知識

■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む

先端のふたをとり、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。

知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

●トンネル内

●ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない

●発炎筒は、お子さまにさわらせない

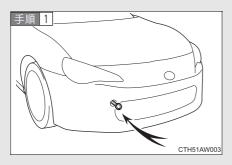
けん引について

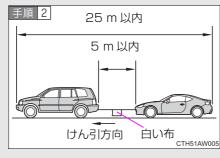
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引される前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

スマートエントリー & スタートシステム非装着車：
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを “ACC” または “ON” にしてください。
スマートエントリー & スタートシステム装着車：
エンジンがかからないときは、“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしてください。

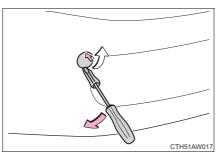
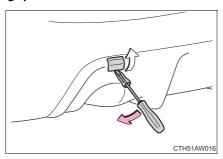
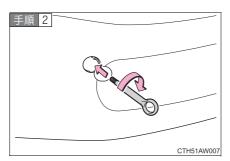
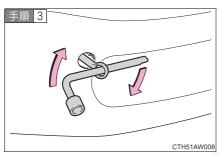
手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付けかた

手順 1 マイナスドライバーを使ってふたをはずす

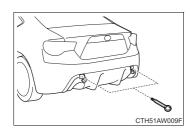
車体への損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。

フロント

リヤ

けん引フックを穴に差しこみ軽くしめる

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

知識

■やむを得ず他車をけん引する場合

他車のけん引はしないでください。やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

CTH51AW009F

リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するときに使用します。

■けん引フックの収納位置

→P. 303, 312

警告

■**けん引中の運転について**

●けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを OFF にしないでください。
スマートエントリー＆ スタートシステム装着車：“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

■**けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**けん引されたあとは**

けん引フックは必ず取り外してください。そのままにしておくと前面に衝撃を受けたとき SRS エアバッグが正常に作動しないことがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●この車をけん引するときは以下のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 30 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車で自車より重い他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジンが止まってしまったときおよび SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

手順 1 エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にする

手順 2 エンジンを再始動する

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

手順 1 “エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

手順 2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯** ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 (警告ブザー) ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常
	ディスチャージヘッドランプ オートレベリング警告灯★ 自動光軸調整システムの異常
（15 秒間黄色点滅）	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯★** スマートエントリー&スタートシステムの異常時に警告ブザーとともに 15 秒間黄色に点滅します。

★ : 仕様により異なる装備やオプション装備

知識

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

電圧が低い、または低下した場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

⚠警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量 （約 7 L 以下）	燃料を補給
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
A/T OIL TEMP	**オートマチックトランスミッション油温警告灯★** トランスミッションフルードの温度異常	トランスミッションフルードを冷却するために、安全な場所に停車し、シフトレバーをＰに入れてエンジンをかけたままにする。 しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後、運転席・助手席シートベルト非着用のまま 30 秒経過すると、警告ブザーが 90 秒間断続的に鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
連続音	連続音	（黄色点滅）	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** オートマチック車： シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーを P にする ・電子キーを車内にもどす
1 回	3 回	（黄色点滅）	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** オートマチック車： シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された マニュアル車： シフトレバーが N の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする、または電子キーを車内にもどす

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	3 回	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
1 回	連続音(10 秒間)	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	—	(15 秒間黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** 電子キーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした	電子キーを携帯してエンジンを始動する
断続吹鳴(7 秒間)	—	(黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** 正規の電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
1 回	—	(15 秒間黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** 電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する(→P. 274)

警告ブザー		警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
車内	車外			
1 回	—	(15 秒間緑色に早点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** ステアリングロックが解除できなかった	ステアリングロックを解除する(→P. 135)
1 回	—	(60 秒間黄色点滅)	**スマートエントリー&スタートシステム表示灯** “エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが 2 回連続で続いた	ブレーキを踏みながら、電子キーで“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる(→P. 331)

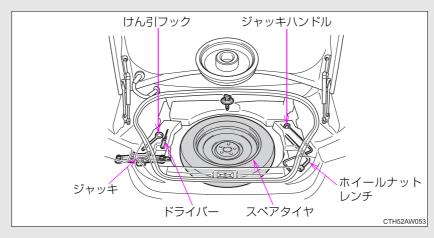
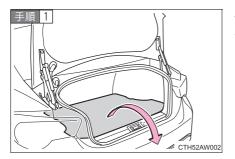
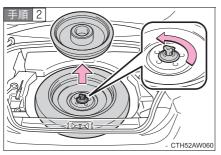
パンクしたときは（スペアタイヤ搭載車）

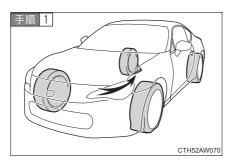
パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。

（タイヤについての詳しい説明は P. 241 をご覧ください。）

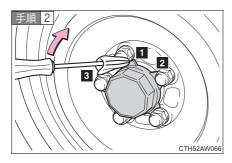
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを R に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

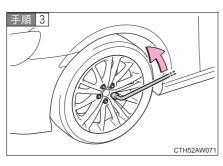
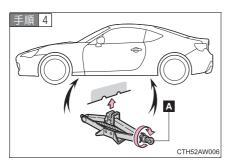
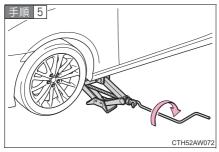
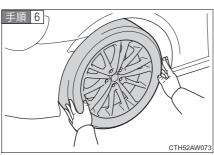
■ 工具とジャッキ位置

応急用タイヤの取り出し方

ラゲージマット装着車は、ラゲージマットを取りはずす

カバーと留め具を取りはずす

パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする

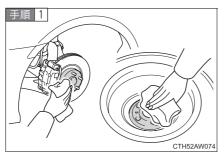
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

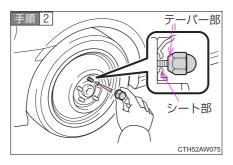
※輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

スチールホイール装着車：センターキャップを取りはずす

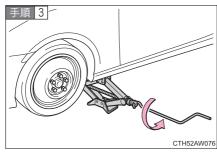
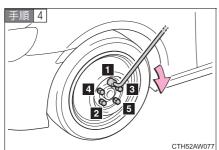
マイナスドライバーを使用して、図の番号順でセンターキャップのツメを外してください。

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ナットを少し（約 1 回転）緩める

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。

スペアタイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットが緩み、タイヤがはずれるおそれがあります。

応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす。

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

120 N・m (1224 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 352)

■後輪がパンクしたときは

手順 1 前輪を応急用タイヤと交換する

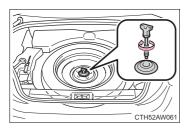
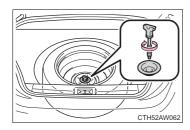
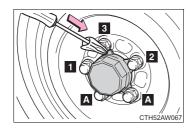
手順 2 パンクした後輪をはずした前輪と交換する

■タイヤの格納について

手順 1 センターキャップ付ホイールは、センターキャップを取りはずす

手順 2 留め具を取り付ける

留め具は必ず図の向きにして取り付けてください。

応急用タイヤ

応急用タイヤ以外

■センターキャップの取り付け（スチールホイール装着車）

図のように A をナットに取り付けたあと、マイナスドライバーを使用して図の番号順でセンターキャップのツメを押し込む

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠ 警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ホイールの交換後はすぐに 120 N・m（1224 kgf・cm）の力でナットをしめる
・タイヤの取りつけには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける。
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける (→P.244)

■応急用タイヤを使用するときは

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください

●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください

●できるだけ早く通常のタイヤと交換ください

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください

●応急用タイヤは前輪に装着してください

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS & ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- EPS
- LSD★

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

■ジャッキの収納について

ジャッキをジャッキホルダーへ収納するときは、ジャッキハンドル取付け部をトランク内側へ向けて収納してください。逆向きに収納すると、車体を損傷するおそれがあります。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット付き車）

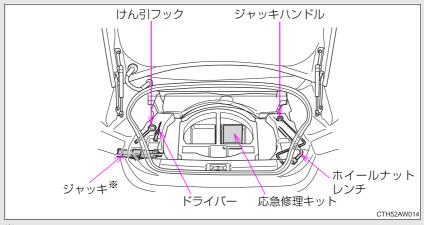
タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

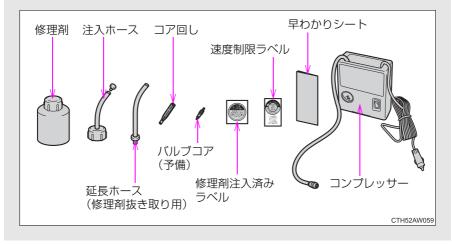
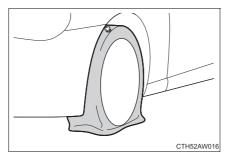
タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク修理剤 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。）パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P. 314）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

■ 応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを N に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

■ タイヤパンク応急修理キット、工具およびジャッキ位置

※：ジャッキの使い方（→P. 303）

■ 応急修理キットの内容

応急修理する前に

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する

- タイヤに刺さっている釘やねじなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ応急修理が出来なくなることがあります。
- パンク修理剤が漏れないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

■**以下のときは、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。**

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

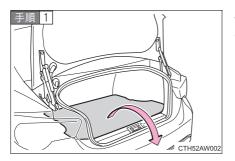
●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

●ホイールが破損しているとき

●2 本以上のタイヤがパンクしているとき

●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

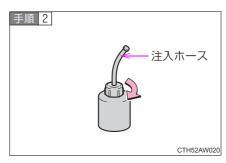
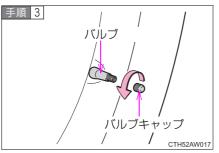
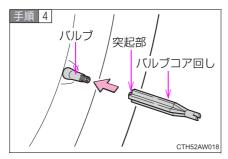
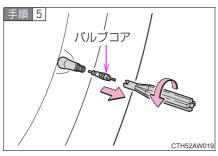
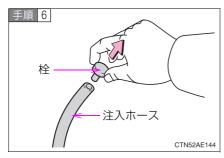
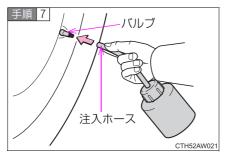
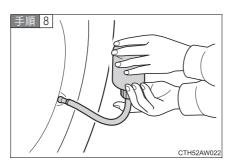
●修理剤の有効期限がきれているとき

応急修理キットの取り出し方

ラゲージマット装着車は、ラゲージマットを取りはずす

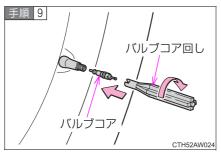
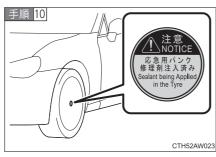
手順 2 応急修理キットを取り出す

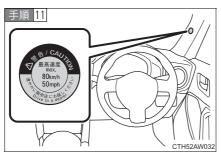
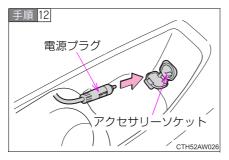
応急修理するときは

手順 1 修理剤ボトルを上下に数回振ってからキャップをはずす

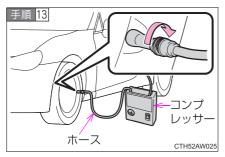
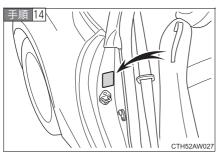
内ぶたをはずさないでください。

注入ホースを修理剤ボトルにねじ込んで接続する

バルブからバルブキャップを取りはずす

バルブコア回しの突起部をバルブに押しあて、空気を抜く

バルブコア回しでバルブコアを反時計回りにまわして抜き取る

注入ホースから栓を取りはずす

注入ホースをバルブに差し込む

修理剤をタイヤ内に注入する

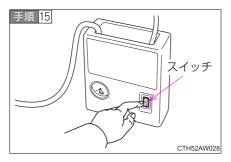
ボトル内の修理剤はすべて注入してください。

空ボトルは修理剤の抜き取りに使用しますので、トヨタ販売店までお持ちください。

バルブから注入ホースを取りはずし、バルブコア回しでバルブコアを時計回りにまわしてバルブにしっかりとねじ込む

修理剤注入済みラベルを貼る

ホイールの汚れや水分を十分に拭き取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク修理剤注入済であることを必ずお伝えください。

速度制限ラベルを車内に貼る

電源プラグをアクセサリーソケットに差し込む（→P. 221）

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にしてください。

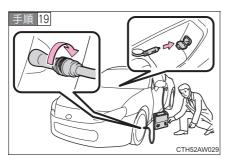
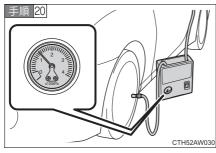
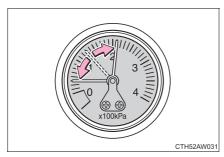
スマートエントリー＆スタートシステム装着車：“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにしてください。

コンプレッサーのホースをバルブにねじ込んで接続する

タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P. 242）

コンプレッサーのスイッチを ON にして、指定空気圧まで空気を充填する

手順 16 圧力計を確認しながら指定空気圧になったらコンプレッサーのスイッチを OFF にする

10 分以内に指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

手順 17 バルブからコンプレッサーのホースを取りはずし、アクセサリーソケットから電源プラグを取りはずす

手順 18 タイヤ内の修理剤を均等に広げるために、直ちに 10 分間走行する

手順 19 走行後、再度コンプレッサーを接続する

手順 20 圧力計で空気圧を確認する

空気圧が 130 kPa 以上の場合は、指定空気圧まで空気を充填する

空気圧が 130 kPa 未満の場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

手順 21 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます。

タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限がきれたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク修理剤には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限がきれる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●パンク修理剤ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク修理剤の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、繰返し使用できます。

●外気温度が -40 ℃以上のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。

●パンク修理剤が衣服に付着するとシミになる場合があります。

●パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかに拭き取ってください。

●応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットはトランク内に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

●車両を安全で平坦な場所に停止させる

●空気がタイヤに残っている状態でバルブコア回しを使用すると、バルブコアが飛び出すおそれがあります。

●注入ホースを取り付けた状態でボトルを振ると、修理剤が飛び出すおそれがあります。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。

警告

- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク修理剤が飛散したりするおそれがあります。
- パンク修理剤注入中にボトルのホースが外れると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク修理剤が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順通りに行わないとパンク修理剤が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、直ちにコンプレッサーのスイッチを切り、修理を中止してください。
- 応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。10 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分はとくに熱くなるので触れないでください。
- 本体が熱を持ち、作動が鈍くなったら使用を中止してください。再使用するときは、コンプレッサーが冷えたことを確認してから使用してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限ラベルを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■修理剤を均等に広げるための運転について

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。とくにカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、以下を確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
・再度空気圧を測ってください。130 kPa 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするときは

●タイヤに刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理を行ってください。 取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。

●バルブコアを汚れた地面や砂地に置かないでください。

●修理剤の内ぶたを取りはずさないでください。

●バルブコア回しをねじ込むときは手で回してください。工具を使用したりすると、破損するおそれがあります。

注意

■**応急修理キットについて**

- 応急修理キットは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットはトランク内に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 129, 138）にしたがっても、エンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 129, 138）にしたがって、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P. 75）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 334）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 326）

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

● バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 334)

● ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

処置の仕方がわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 “エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏んで“エンジンスタートストップ”スイッチを約 15 秒以上押しつづける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが N であることを確認する

手順 3 “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒間 “エンジンスタートストップ” スイッチを押し続ける

上記の手順に従いエンジンが始動できても、システムの故障が考えられます。トヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは（オートマチック車）

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

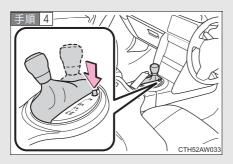
手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 **スマートエントリー＆スタートシステム非装着車**

エンジンスイッチを“ACC”にする

スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 20)

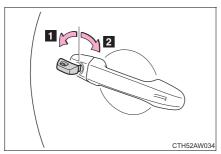
電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 30）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアやトランクを開けること、エンジンを始動することができます。

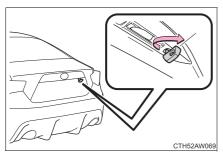
ドアの解錠・施錠、トランクの解錠

メカニカルキー（→P. 21）を使って次の操作ができます。

オートアラーム★設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴ります。（→P. 77）

ドア

1 運転席ドア解錠

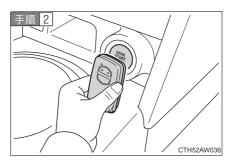
2 運転席ドア施錠

トランク

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける

★：仕様により異なる装備やオプション装備

エンジン始動の方法

オートマチック車

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルをしっかり踏む

CTH52AW036

電子キーのトヨタエンブレム面で、“エンジン スタート ストップ” スイッチにふれる

電子キーを検知するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

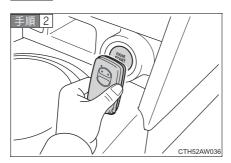
カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

マニュアル車

手順 1 シフトレバーが N の状態でクラッチペダルをしっかり踏む

CTH52AW036

電子キーのトヨタエンブレム面で、“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる

電子キーを検知するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。

手順 3 クラッチペダルをしっかりと踏み込んで、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■エンジンの停止の仕方

オートマチック車

通常のエンジン停止の仕方と同様、シフトレバーを P にして“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

マニュアル車

通常のエンジン停止の仕方と同様、シフトレバーを N にして“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

■電池交換について

前記のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 274)

■“エンジン スタート ストップ”スイッチのモード切りかえについて (カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムをキャンセルしたとき)

オートマチック車

エンジン始動方法の 手順 3 で、ブレーキペダルから足を離して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 132)

マニュアル車

エンジン始動方法の 手順 3 で、クラッチペダルから足を離して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→ P. 132)

■オートアラーム★について

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P. 77)

■スマートエントリー&スタートシステムにてドアの施錠・解錠ができないときは

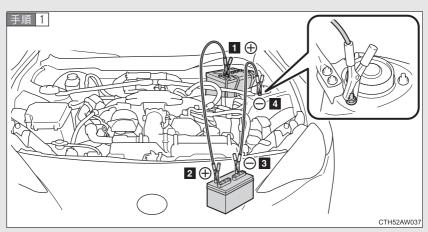
メカニカルキーまたは、ワイヤレスリモコンでドアの施錠・解錠をしてください。

★ : 仕様により異なる装備やオプション装備

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

手順 1

バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1. 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ。
2. 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ。
3. 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ。
4. 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 3 スマートエントリー＆スタートシステム装着車は、“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 4 **スマートエントリー&スタートシステム非装着車**
救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてから自車のエンジンをかける
スマートエントリー&スタートシステム装着車
救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジンスタートストップ”スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

■バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

●バッテリーがあがった直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠をしてください。

●バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動はできないことがあります。2 回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常に“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてから行ってください。
バッテリーあがり前の“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時はとくに注意してください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

警告

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚･衣服･車体につかないようにする

●バッテリーに寄りかかったりしない

●誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近づけない

■**車の損傷を防ぐために**

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■**ドアを閉めるときは**

ドアガラスを内側に倒すように力を加えながらゆっくりと閉めてください。
ドア連動ドアガラス開閉機能が作動しないため、ドアガラスと車体が干渉して傷付き、ドアガラスが割れるおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

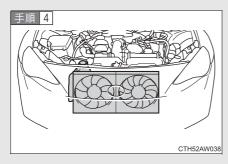
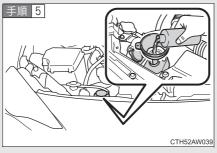
手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：
エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：
エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

ファンが作動している場合：
水温計の針が下がってきてからエンジンを止める

ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

●水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。

●エンジン及びラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にして、エンジンを停止する

手順 2 後輪周辺の土や雪を取り除く

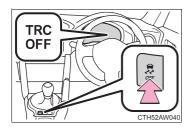
手順 3 後輪の下に木や石などをあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーをオートマチック車は D または R、マニュアル車は 1 または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいときは

を押してTRCをOFFにしてください。

警告

■脱出するときは

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

●後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

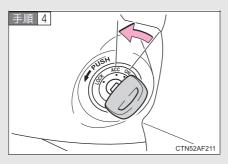
手順 2 シフトレバーを N に入れる。

シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：“エンジン スタート ストップ” スイッチを 3 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは

●ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	50

エンジンオイル

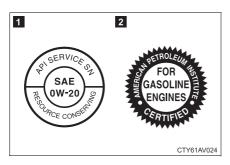
指定銘柄	容量 [L]（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル　SN 0W-20※2 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル　SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC　GF-5, SAE 5W-30	5.2	5.4

※[1] エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、車を水平な場所におき、エンジン始動前またはエンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。オイル量の確認は、レベルゲージの両面を見て油面の低い方で確認してください。

※[2] 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

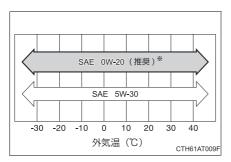
エンジンオイル消費量は新車時から数千 km 走行すると安定しはじめます。
また、厳しい運転条件（悪路、山道、登降坂路、交差点などでの急加減速の繰り返し、またはエンジンの高回転使用頻度が高いなど）での走行時は、通常に比べてエンジンオイルの消費が早くなることがあります。このような使用の頻度が高い場合、1000 km 走行あたり 0.5 L ～ 1 L 消費する場合があります。早めの点検・補充をお奨めします。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、または ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
  粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 50 ブルー 凍結保証温度 濃度 50%　　-36 ℃	**オートマチック車** 7.5 **マニュアル車** 7.2

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	駆動方式	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正オートマチックトランスミッションフルード WS	FR(後輪駆動)	7.5 ※

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

マニュアルトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャル II (API GL-3, SAE 75W-90)	2.2

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
LSD 非装着車 トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85) **LSD 装着車** トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	1.15

クラッチ

■ クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5
切れたときの床板とのすき間※	30 ～ 50

※ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.5 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	55

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200 N (20 kgf) のときのノッチ※数	7 ～ 8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
1.5

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
標準タイヤ	205/55R16 91V	16 × 6 1/2JJ	240 (2.4)
	205/55R16 91V	16 × 6 1/2J	
	215/45R17 87W	17 × 7J	
スペアタイヤ	T135/80D16 101M	16 × 4T	420 (4.2)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ **ハロゲンヘッドランプ装着車** ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（バルブタイプ：H11） **ディスチャージヘッドランプ装着車**	 60 55 35
	車幅灯 **ハロゲンヘッドランプ装着車** **ディスチャージヘッドランプ装着車**	 5 LED ※
	フロントフォグランプ★	24
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	LED ※
	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	21
	サイド方向指示／非常点滅灯	5
	ハイマウントストップランプ	LED ※
	番号灯	5
車内	インテリアランプ	10
	ドアカーテシーランプ★	5
	バニティランプ★	2
	トランクランプ★	5

※ LEDは、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

★：仕様により異なる装備やオプション装備

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
ZN6	FA20 (2.0L ガソリン)	FR（後輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム★ (→P. 23)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）	あり	なし
	作動の合図（ブザー）の調整	レベル5	レベル0～7
	連続してできる施錠操作の回数	2回	無制限
ワイヤレスドアロック (→P. 36)	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30秒	60秒
			120秒
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
	作動の合図（ブザー音量調整）（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	レベル5	レベル0～7
	半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ）	あり	なし

★：仕様により異なる装備やオプション装備

<table>
<tr><th>項目</th><th>機能の内容</th><th>初期設定</th><th>変更後</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ワイヤレスドアロック
(→P. 36)</td><td rowspan="3">トランク解錠時の操作</td><td rowspan="3">長押し（短）</td><td>長押し（長）</td></tr>
<tr><td>短押し（1 回）</td></tr>
<tr><td>短押し（2 回）</td></tr>
<tr><td>オート
アラーム★
(→P. 77)</td><td>オートアラームの作動</td><td>なし</td><td>あり</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ライト自動点灯・消灯システム★
(→P. 174)</td><td>ライトセンサーの感度調整</td><td>± 0%</td><td>-40% ～ +40%</td></tr>
<tr><td>ライトを点灯するまでの時間</td><td>標準</td><td>長め</td></tr>
<tr><td>リヤウインドウデフォッガー
(→P. 208)</td><td>作動モードの切替
(オートエアコン装着車のみ)</td><td>15 分作動</td><td>連続作動</td></tr>
<tr><td rowspan="6">イルミネーション
(→P. 210)</td><td rowspan="2">消灯までの時間</td><td rowspan="2">15 秒</td><td>7.5 秒</td></tr>
<tr><td>30 秒</td></tr>
<tr><td>解錠時の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>エンジンスイッチ OFF 後の作動</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>接近時のインテリアランプの点灯
(スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ)</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>インテリアランプの点灯</td><td>あり</td><td>なし</td></tr>
</table>

★ : 仕様により異なる装備やオプション装備

さくいん

アルファベット略語一覧

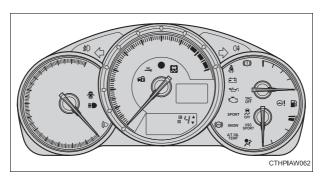
アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
DISP	ディスプレイ
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
FR	フロントエンジンリヤドライブ
LED	ライトエミッティングダイオード
LSD	リミテッドスリップディファレンシャル
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

す

症状別さくいん

警告灯が点灯、点滅した

P. 296 警告灯がついたときは

■警告灯一覧

	ブレーキ警告灯 P. 296		ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯 P. 297
	充電警告灯 P. 296		スマートエントリー&スタートシステム表示灯（黄色） P. 297, 300
	油圧警告灯 P. 296		半ドア警告灯 P. 298
	エンジン警告灯 P. 297		燃料残量警告灯 P. 298
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 P. 297		運転席シートベルト非着用警告灯 P. 298
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 P. 297		助手席シートベルト非着用警告灯 P. 298
	パワーステアリング警告灯 P. 297	A/T OIL TEMP	オートマチックトランスミッション油温警告灯 P. 298
	スリップ表示灯 P. 297		

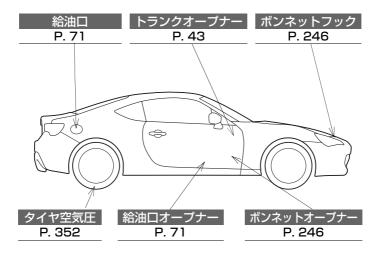
警告音が鳴った

■警告灯の点灯や点滅を確認ください。（→P. 296）

■警告灯の点灯や点滅がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

<table>
<tr><th>お車の状況</th><th>鳴ったときの状況</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td rowspan="5">停車／駐車中</td><td>ドアを開けたとき</td><td>P. 27
P. 139
P. 169</td></tr>
<tr><td>車外に出たとき</td><td>P. 27</td></tr>
<tr><td>スマートエントリー＆スタートシステムでロックセンサーにふれたとき</td><td>P. 27</td></tr>
<tr><td>ワイヤレス機能でロックスイッチを押したとき</td><td>P. 27
P. 37</td></tr>
<tr><td>“エンジン スタート ストップ”スイッチを押したとき</td><td>P. 27</td></tr>
<tr><td rowspan="4">走行中</td><td>シフトレバーを R にしたとき</td><td>P. 145
P. 149</td></tr>
<tr><td>シフトダウンしたとき</td><td>P. 145</td></tr>
<tr><td>ブレーキを踏んだとき</td><td>P. 122</td></tr>
<tr><td>D ポジションでのパドルシフトスイッチ操作時または M ポジションで走行しているとき</td><td>P. 145</td></tr>
</table>

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 （参考値）	50 L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン　P. 72, 346
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ 前輪：240 (2.4) kPa (kg/cm^2) 後輪：240 (2.4) kPa (kg/cm^2) 応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm^2)
エンジンオイル容量 （参考値）	オイルのみ交換時：5.2 L オイルとフィルター交換時：5.4 L
エンジンオイルの種類	P. 346